



令和4年度
富士山麓外来植物等調査業務委託

報 告 書
(抜粋)

令和5年1月

株式会社 環境アセスメントセンター

1.4 調査場所

調査場所は、下記車道の両側 3m 幅程度の範囲とした。

- ・南富士エバーグリーンライン（裾野市須山）のうち、富士山スカイライン周遊区間接続部（標高 1,440m 付近）から 7.5km 下った箇所（標高 1,000m 付近）までの範囲（図 1.4.1）。

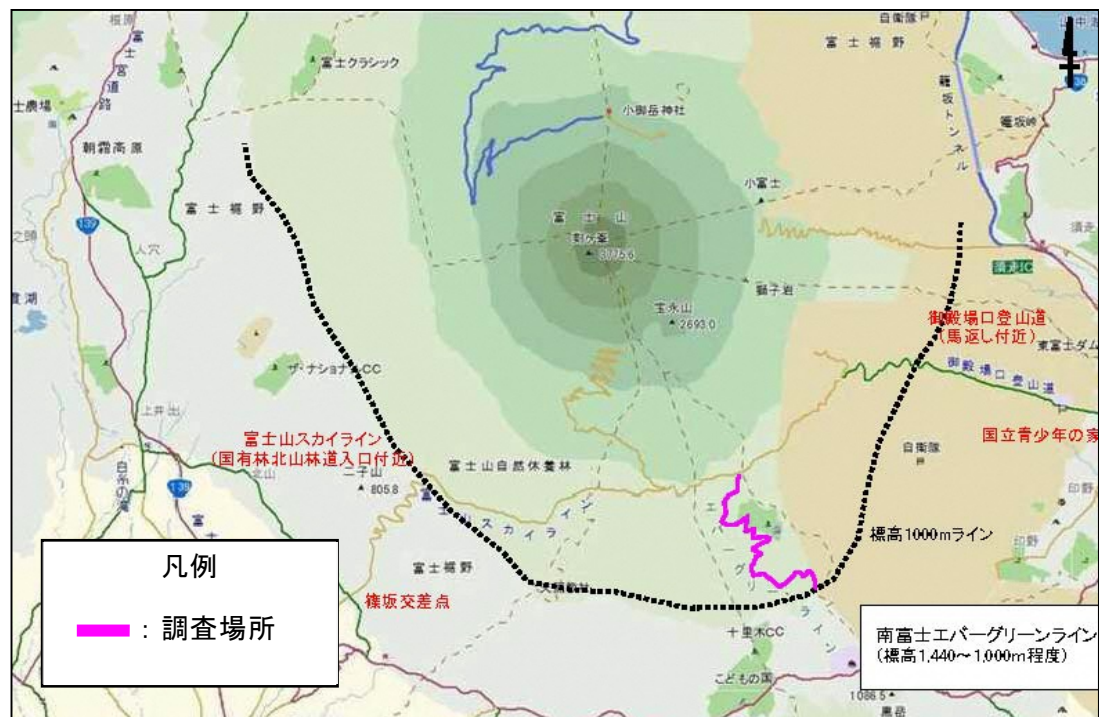


図 1.4.1 調査場所位置図

表 1.5.2 外来植物選定基準

法律等	カテゴリ	
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号）（最終改正：令和 4 年 6 月 17 日号外 法律第 68 号）【外来生物法】	特定外来生物 （最終更新：令和 3 年 8 月 13 日）	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの。
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（環境省報道発表資料「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」の公表について（お知らせ）、平成 27 年 3 月 26 日） 【生態系被害防止外来種リスト】	定着予防外来種	侵入予防外来種
		その他の定着予防外来種
	総合対策外来種	緊急対策外来種
		重点対策外来種
		その他の総合対策外来種
	産業管理外来種	

注 1) 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方

(被害の深刻度)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

(対策の実効性、実行可能性)

- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

注 2) 利用上の留意事項

産業管理外来種については、利用の回避・抑制、侵略性のない代替種の開発・普及又はリスクを低減若しくは抑制するための管理の実施・普及が期待される。掲載種には種毎に利用状況や利用上の留意事項を記載しており、産業管理外来種については利用上の留意事項に沿って適切な管理を行うことが期待される。

2.2 外来植物

2.2.1 結果概要

外来植物の確認状況を表 2.2.1 に示す。

外来植物は、5 科 14 種 1,733 地点 7,158 個体を確認した。14 種全てが生態系被害防止外来種で、特定外来生物の確認はなかった。

本年度確認された生態系被害防止外来種の中で、最も個体数が多かった種は、ハルザキヤマガラシ（3,895 個体）であり、次いでセイヨウタンポポ（1,394 個体）、ハルガヤ（891 個体）、ヒメジョオン（432 個体）、メリケンカルカヤ（361 個体）の順であった。

一方、分布の広がりを示す区画数及び地点数は、セイヨウタンポポ（120 区画 736 地点）が最も多く、次いでハルザキヤマガラシ（113 区画 684 地点）、ヒメジョオン（81 区画 170 地点）の順であった。ハルザキヤマガラシ、セイヨウタンポポは広範囲に分布し個体数が多く、ヒメジョオンは半数以上の区画に分布するが、区画あたりの個体数は少ない。また、ハルガヤ、メリケンカルカヤ、フランスギクは個体数が多いものの、分布範囲が限られることが分かる（図 2.2.1）。

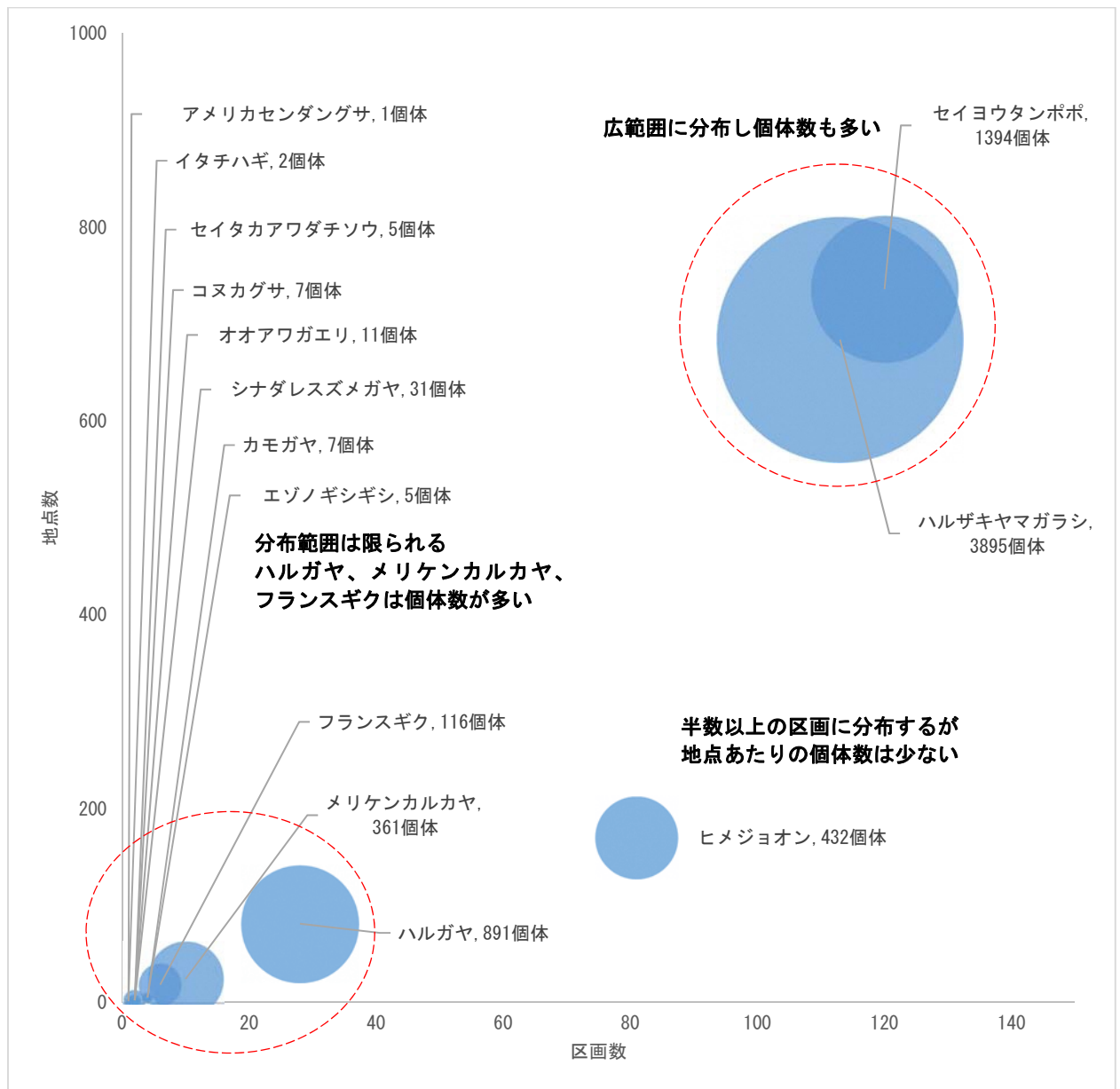
表 2.2.1 外来植物確認状況一覧

科名	種名	外来植物選定基準		現地確認状況								
		外来生物法	生態系被害防止外来種	上り線			下り線			全体		
				区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数	区画数	地点数	個体数
イネ	シナダレスズメガヤ		重点	1	1	1	1	1	30	2	2	31
マメ	イタチハギ		重点	1	1	2	—	—	—	1	1	2
キク	セイタカアワダチソウ		重点	1	1	2	1	1	3	2	2	5
キク	セイヨウタンポポ*		重点	63	456	801	57	280	593	120	736	1,394
イネ	メリケンカルカヤ		その他	1	1	18	9	23	343	10	24	361
イネ	ハルガヤ		その他	14	38	472	14	43	419	28	81	891
アブラナ	ハルザキヤマガラシ		その他	55	334	1,965	58	350	1,930	113	684	3,895
タデ	エゾノギンギシ		その他	—	—	—	4	5	5	4	5	5
キク	アメリカセンダングサ		その他	—	—	—	1	1	1	1	1	1
キク	ヒメジョオン		その他	39	76	178	42	94	254	81	170	432
キク	フランスギク		その他	2	7	32	4	11	84	6	18	116
イネ	コスカグサ		産業	—	—	—	2	2	7	2	2	7
イネ	カモガヤ		産業	2	3	5	2	2	2	4	5	7
イネ	オオアワガエリ		産業	1	1	1	1	1	10	2	2	11
5 科	14 種	0 種	14 種								1,733	7,158

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
- ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
 - 重点：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） 重点対策外来種
 - その他：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） その他の総合対策外来種
 - 産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）

※：セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。



※「●」の大きさは、外来植物の個体数を示す

図 2.2.1 南富士エバーグリーンラインにおける外来植物の分布の広がりと個体数

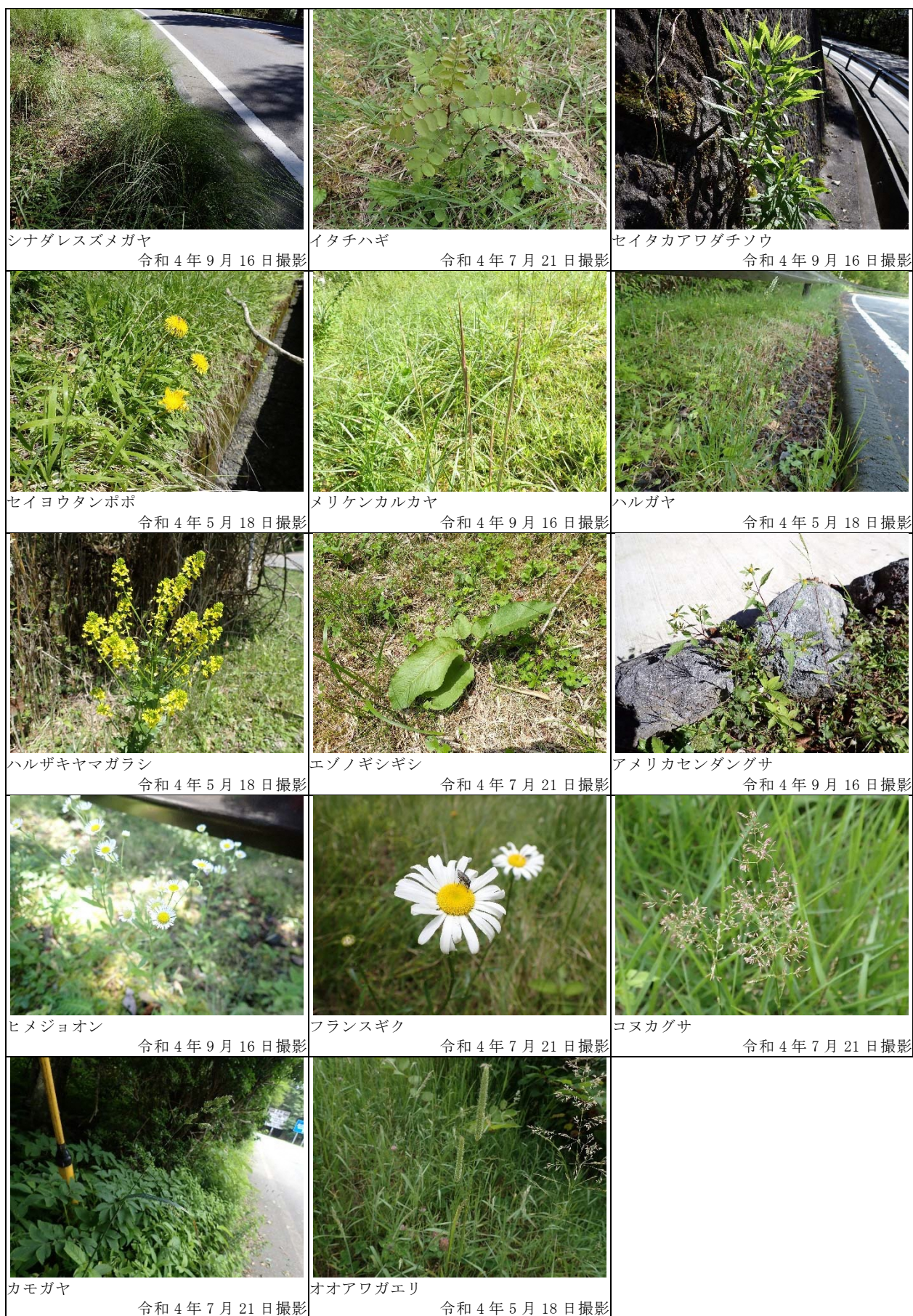


写真 2.2.1 外来植物確認種写真

2.2.2 種ごとの確認状況

外来植物の種ごとの確認状況を次項に示す。外来植物の解説は、環境省ホームページにおいて公表されている「生態系被害防止外来種リスト選定の根拠情報」や図鑑等から引用し整理した。

(1) 総合対策外来種（重点対策外来種）

甚大な被害が予想されるため、特に、各主体（国、地方公共団体、国民等）のそれぞれの役割における対策の必要が高いと定義される、総合対策外来種（重点対策外来種）は、シナダレスズメガヤ、イタチハギ、セイトカアワダチソウ、セイヨウタンポポの3科4種を確認した。

1) シナダレスズメガヤ

上り線の1区画で、1地点1個体、下り線の1区画で1地点30個体、計2区画で2地点31個体を確認した。確認地点の環境は路傍の日当たりの良い草地であった。

過年度（平成26年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高1,000m以下に限られる。また、南富士エバーグリーンラインでは分布範囲や個体数が多いことから、地域生態系に対する影響は限定的であると考えられる。

表 2.2.2 種の解説（シナダレスズメガヤ）

種名等	シナダレスズメガヤ（イネ科） 別名・流通名：ウイーピングラブグラス、セイタカカゼクサ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	（被害の深刻度） ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる 地域や環境	河原、海岸砂浜
原産地・分布	アフリカ南部原産。ヨーロッパ、アジア、オーストララシア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島に分布。1959年に四国農業試験場に導入後、各地に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴	多年草。茎は密に束生、高さ1.2m。叢生して密な大株となる。葉は長さ40-60cm、幅1.5-2mm。花期は8-10月ごろ。小穂は淡緑色でやや黒紫色を帯びる。
生育環境等	牧草地、路傍、荒地、河原等に生育する。日当たりの良い、砂質土壌を好む。
影響	河原や砂丘に侵入して大株となり、在来植物と競合し、駆逐する。砂の堆積を促進することで、生態系の物理的な基盤を変化させる。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報）＜植物＞

環境省ホームページ（<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>）（2023年1月12日確認）



シナダレスズメガヤ

（令和4年9月16日撮影）



シナダレスズメガヤ

（令和4年9月16日撮影）

写真 2.2.2 シナダレスズメガヤの確認状況写真



図 2.2.2 シナダ雷斯ズメガヤの確認位置図

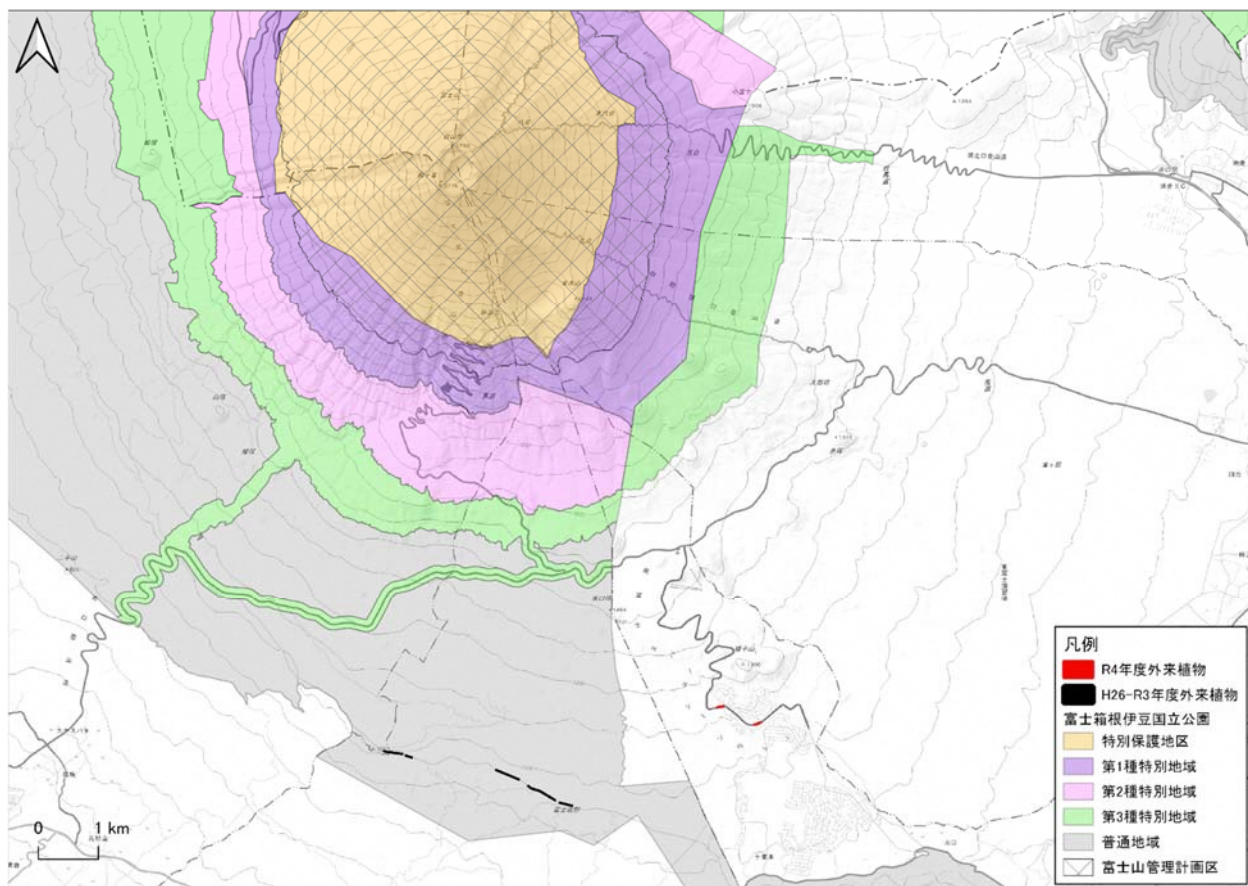


図 2.2.3 シナダ雷斯ズメガヤの経年確認位置図

2) イタチハギ

上り線の1区画で、1地点2個体を確認した。確認地点の環境は路傍の日当たりの良い草地で、あった。

過年度（平成26年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高1,500m以下に限られる。本種は、富士山の外来植物ハンドブック（ふじさんネットワーク, 2018）において、「富士山への侵入を防ぎたい要注意・外来植物」として掲載されているため、南富士エバーグリーンラインにおいても対策の実施が望ましい。

表 2.2.3 種の解説（イタチハギ）

種名等	イタチハギ（マメ科） 別名・流通名：クロバナエンジュ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	Ⅱ．生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ．生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。 Ⅴ．生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。
対策優先度の 要件	（被害の深刻度） ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす。
特に問題になる 地域や環境	河川敷、海岸、亜高山帯、リンゴ園周辺
原産地・分布	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。1912年に渡来。1940年代以降に本格的に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴	高さ4m、落葉低木。葉は薄く6-20対の小葉からなる奇数羽状複葉。5-7月に黒紫色の花をつける。萌芽力があり、生長が速い。
生育環境等	荒地、路傍、崩壊地、土手、河原、海岸、自然度の高い亜高山帯にも定着し、生育する。
影響	河川を中心に分布を拡大しており、河原の在来植物と競合、駆逐する等の理由で、多くの都道府県で侵略的な外来植物とされている。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023年1月12日確認)



写真 2.2.3 イタチハギの確認状況写真



図 2.2.4 イタチハギの確認位置図

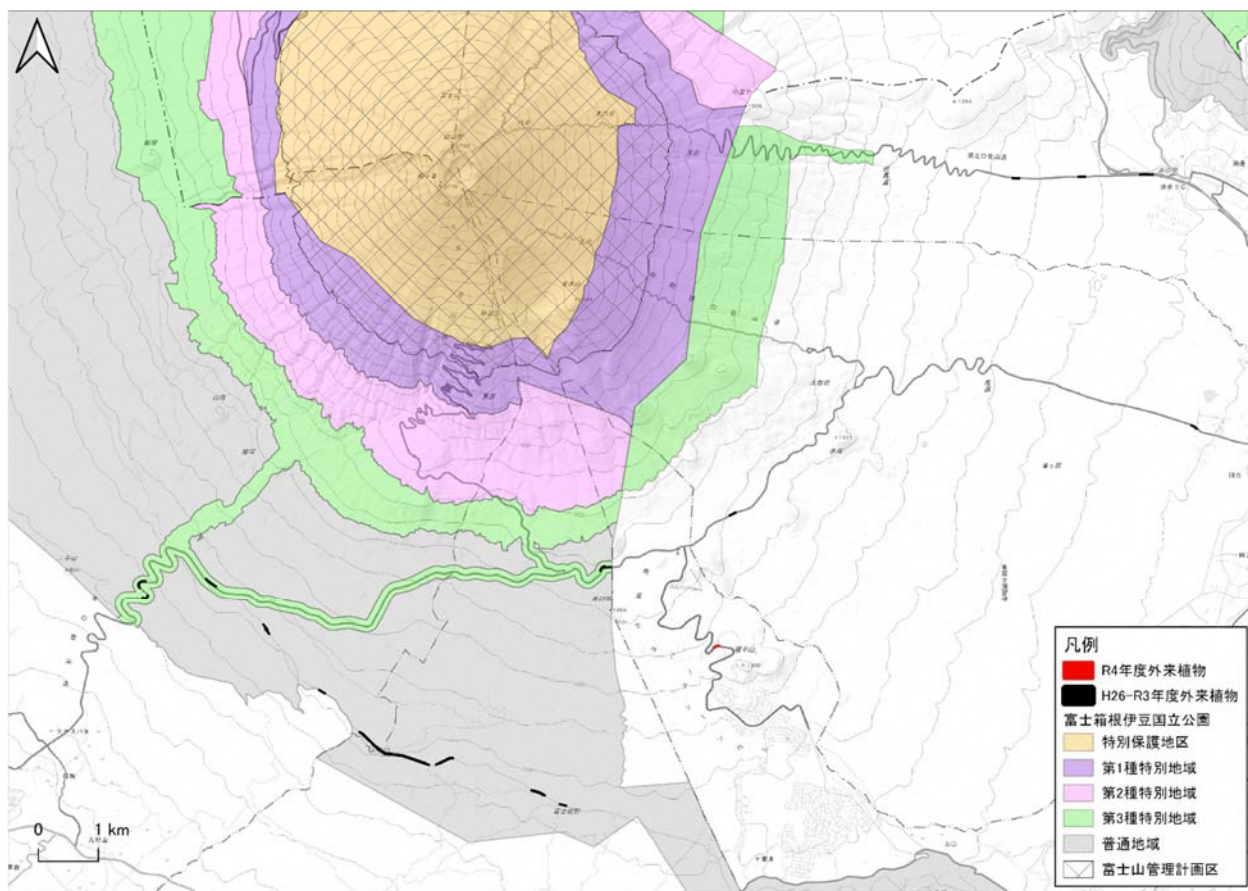


図 2.2.5 イタチハギの経年確認位置図

3) セイタカアワダチソウ

上り線の1区画で、1地点2個体、下り線の1区画で1地点3個体、計2区画2地点5個体を確認した。確認地点の環境は擁壁、路傍の日当たりの良い草地であった。

過年度（平成26年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高1,100m以下に限られる。また、南富士エバーグリーンラインでは分布範囲や個体数が多いことから、地域生態系に対する影響は限定的であると考えられる。

表 2.2.4 種の解説（セイタカアワダチソウ）

種名等	セイタカアワダチソウ（キク科） 別名・流通名：セイタカアキノキリンソウ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	（被害の深刻度） ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる 地域や環境	湿原・湿地
原産地・分布	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布する。国内へは観賞用植物として明治時代（1897年頃）に渡来、大正末期から野生化、戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴	多年草。高さ2.5m。花期は8-11月。頭状花。虫媒花。瘦果は風などにより伝播される。地下茎により繁殖する。
生育環境等	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって攪乱された環境が増えると繁茂する。
影響	湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象になっている。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023年1月12日確認)

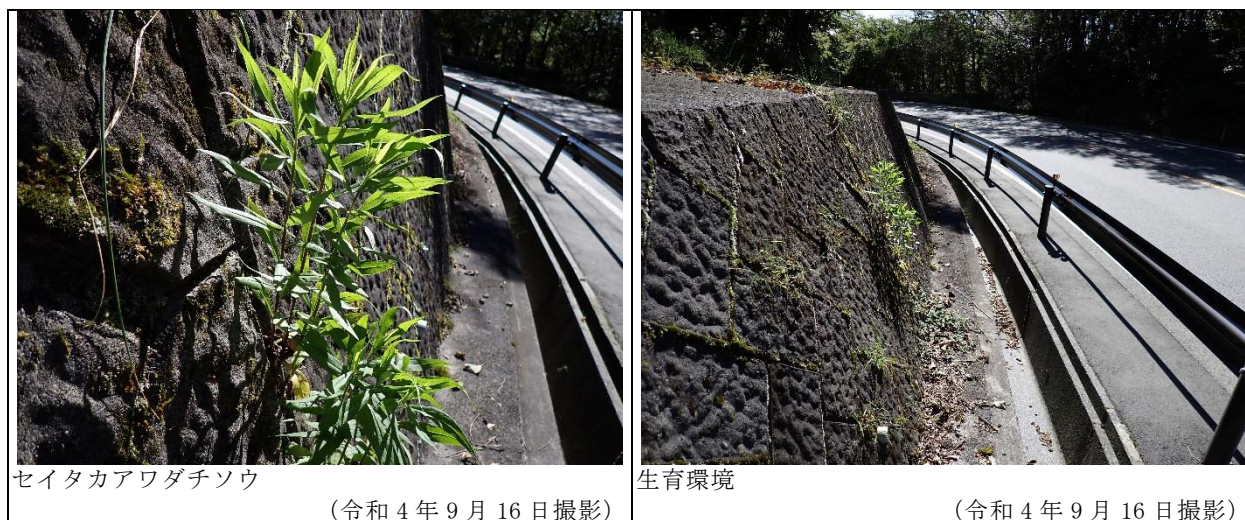


写真 2.2.4 セイタカアワダチソウの確認状況写真

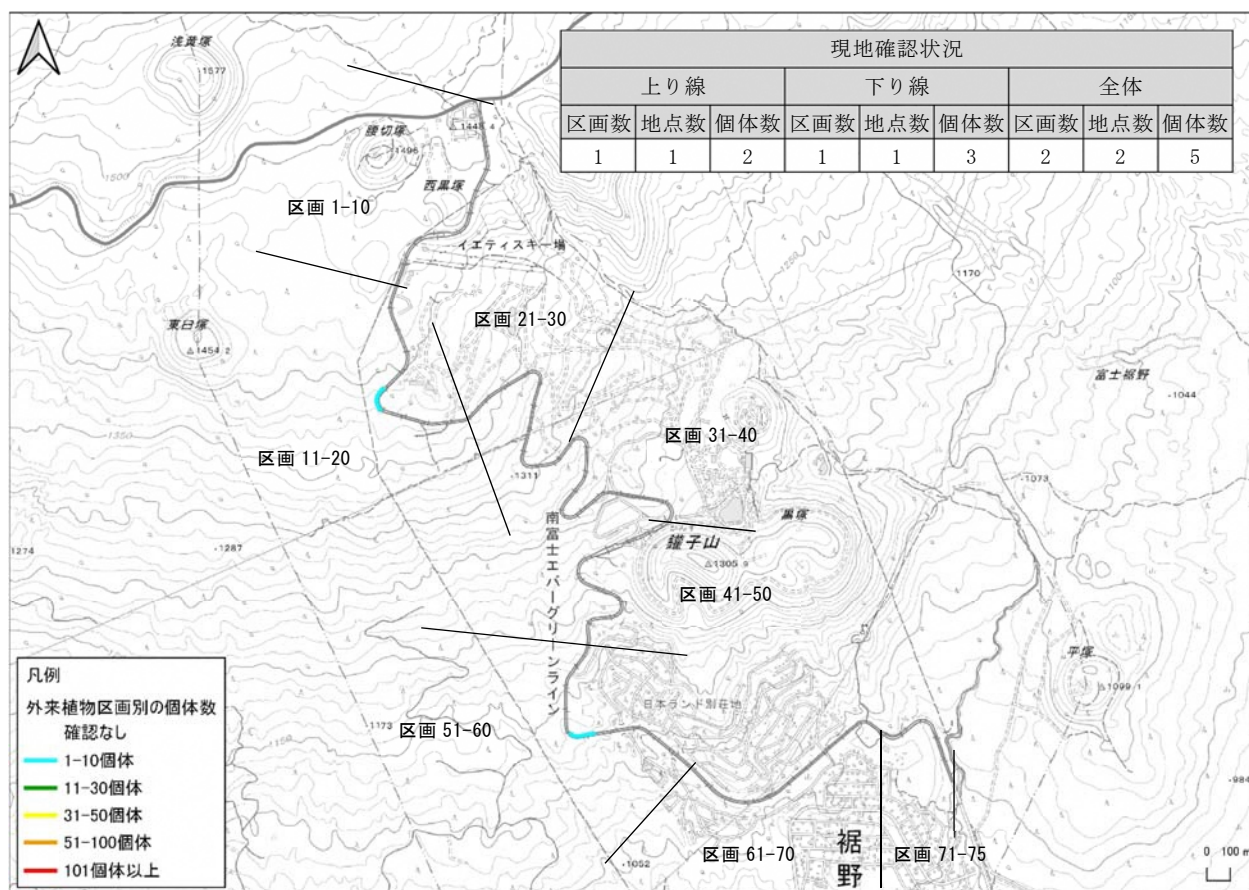


図 2.2.6 セイタカアワダチソウの確認位置図

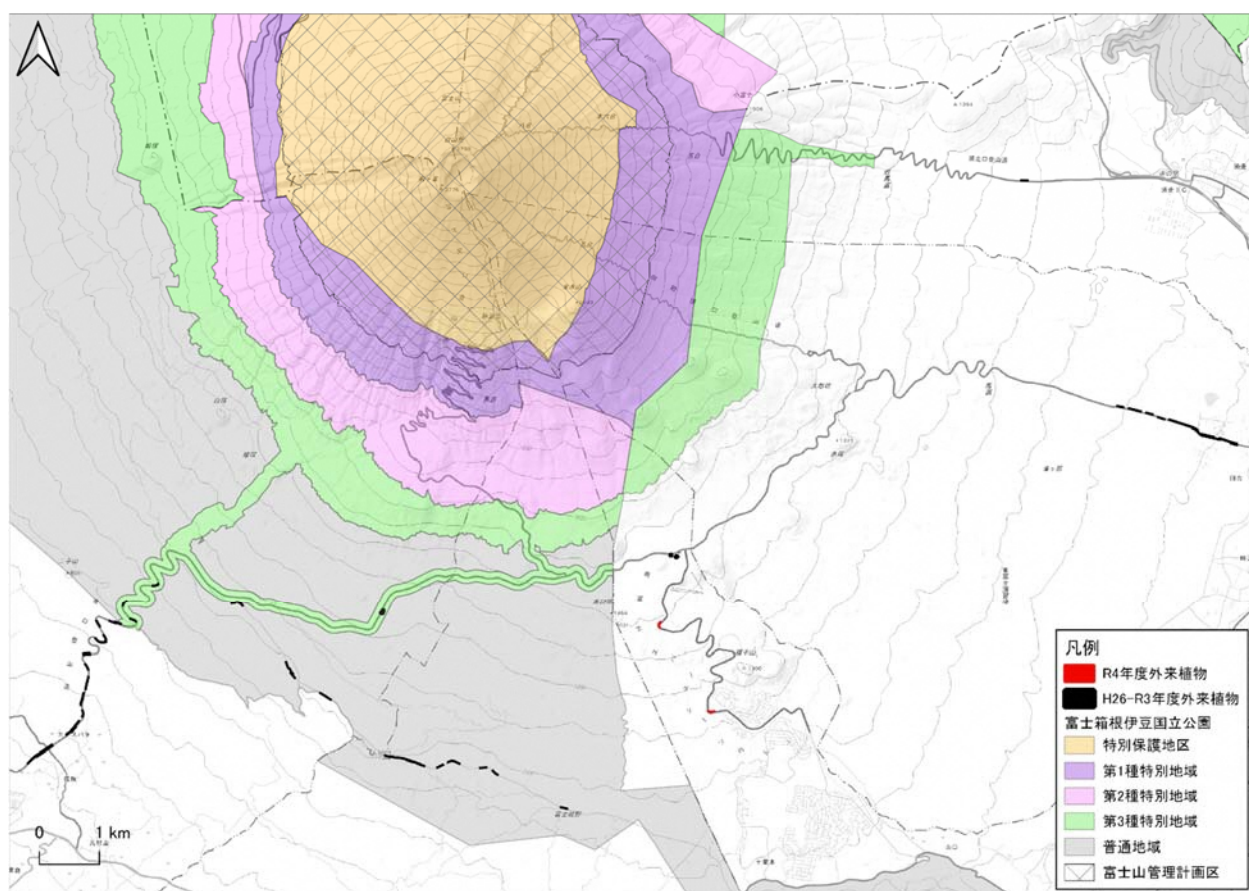


図 2.2.7 セイタカアワダチソウの経年確認位置図

4) セイヨウタンポポ

上り線の 63 区画で、456 地点 801 個体、下り線の 57 区画で 280 地点 593 個体、計 120 区画 736 地点 1,394 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、開けた日当たりの良い草地であった。調査を実施した全 150 区画の 80%を占める範囲に分布するが、地点あたりの個体数は少なかった。

過年度（平成 26 年度～令和 3 年度）の調査結果と同様に、南富士エバーグリーンラインにおいても広く分布を確認した。本種は、富士山の外来植物ハンドブック（ふじさんネットワーク, 2018）において、「富士山への侵入を防ぎたい要注意・外来植物」として掲載されているため、南富士エバーグリーンラインにおいても対策の実施が望ましい。

表 2.2.5 種の解説（セイヨウタンポポ）

種名等	セイヨウタンポポ（キク科） 生態系被害防止外来種リストにおける種名：外来性タンポポ種群
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	（被害の深刻度） ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる 地域や環境	自然草原や高山
原産地・分布	ヨーロッパ原産。世界中に分布する。国内へは 1940 年に北海道に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴	多年草。高さは 10-40cm。花期は 3-5 月。単為生殖により結実する。瘦果は風、雨、動物、人間などにより伝播される。根茎切片による繁殖力は強く、どの部分の切片からも出芽する。
生育環境等	市街地、道端、空き地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。
影響	繁殖力が強く、国立公園内の亜高山帯等の自然性の高い環境にも侵入し、在来種との競合のおそれがある。在来種との雑種が全国的にみられ、遺伝的攪乱が既に広く起こっていることが確認されている。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ（<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>）（2023 年 1 月 12 日確認）



写真 2.2.5 セイヨウタンポポの確認状況写真

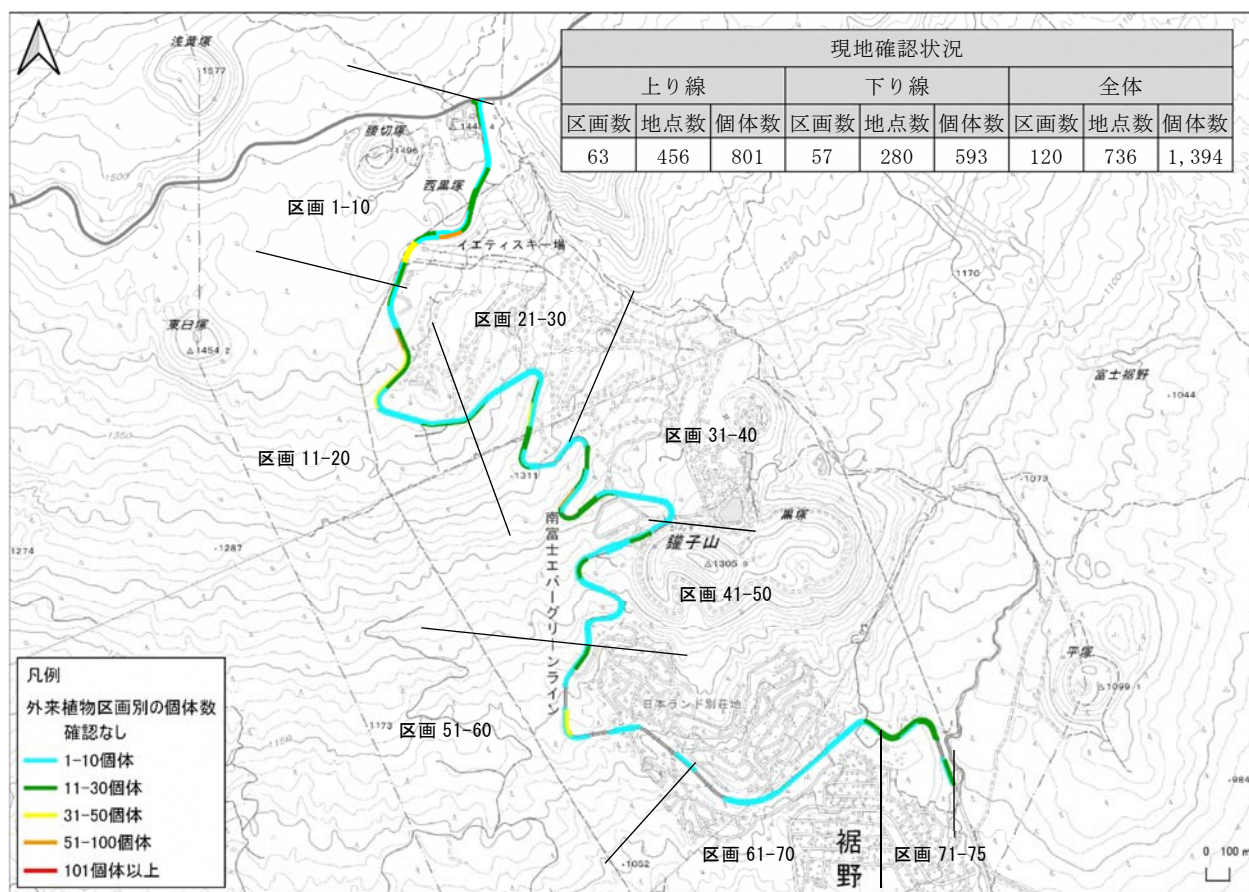


図 2.2.8 セイウタンポポの確認位置図

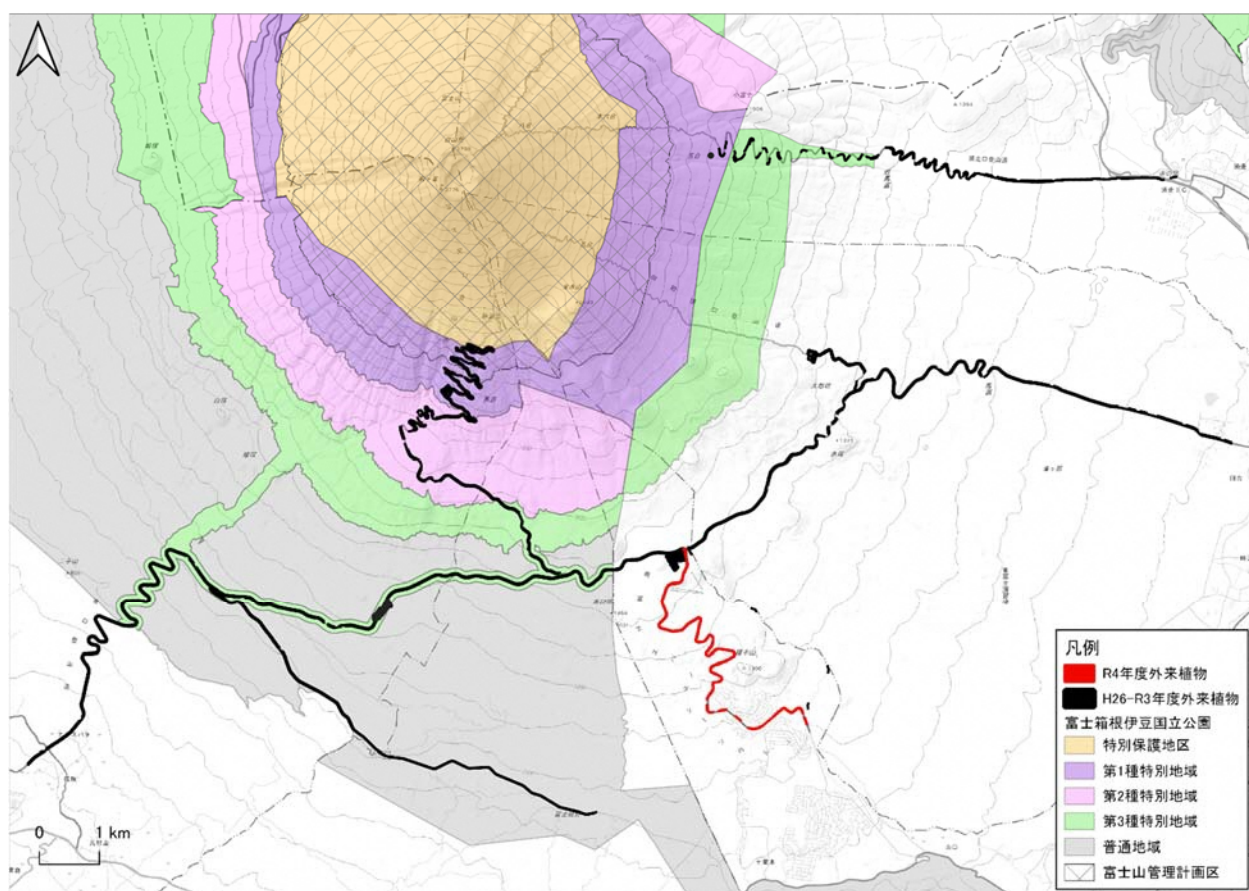


図 2.2.9 セイウタンポポの経年確認位置図

(2) 総合対策外来種（その他の総合対策外来種）

総合対策外来種（その他の総合対策外来種）は、メリケンカルカヤ、ハルガヤ、ハルザキヤマガラシ、エゾノギシギシ、アメリカセンダングサ、ヒメジョオン、フランスギクの4科7種を確認した。

1) メリケンカルカヤ

上り線の1区画で、1地点18個体、下り線の9区画で23地点343個体、計10区画24地点361個体を確認した。確認地点の環境は路傍の開けた日当たりの良い草地であった。一部で群生する箇所もみられた。

過年度（平成26年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高1,200m以下に限られる。

表 2.2.6 種の解説（メリケンカルカヤ）

種名等	メリケンカルカヤ（イネ科） 別名・流通名：－
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	
特に問題になる 地域や環境	雑木林、草地、河川敷
原産地・分布	北アメリカ原産。南アメリカ、東アジア、オーストラリア、太平洋諸島に分布。1940（昭和15）年頃に入り、本州（関東以西）、四国、九州に分布。
特徴	多年草。高さ1m。茎は叢生し、次第に大株となる。花期は9～10月。晩秋に葉鞘につつまれた穂をつける。穎果は主に風により伝播される。
生育環境等	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。日当たりが良く、土壌が乾いた所に多い。酸性土壌や岩山にも生育する。
影響	埼玉では雑木林にも侵入し、センブリ群落を駆逐。愛知県では希少種のウンヌケ絶滅危惧Ⅱ類（VU）やウンウケモドキ（準絶滅危惧（NT））と競合。在来植物が生育困難な酸性土壌にも侵入し、裸地環境を改変する。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023年1月12日確認)



メリケンカルカヤ

(令和4年9月16日撮影)



生育環境

(令和4年9月16日撮影)

写真 2.2.6 メリケンカルカヤの確認状況写真

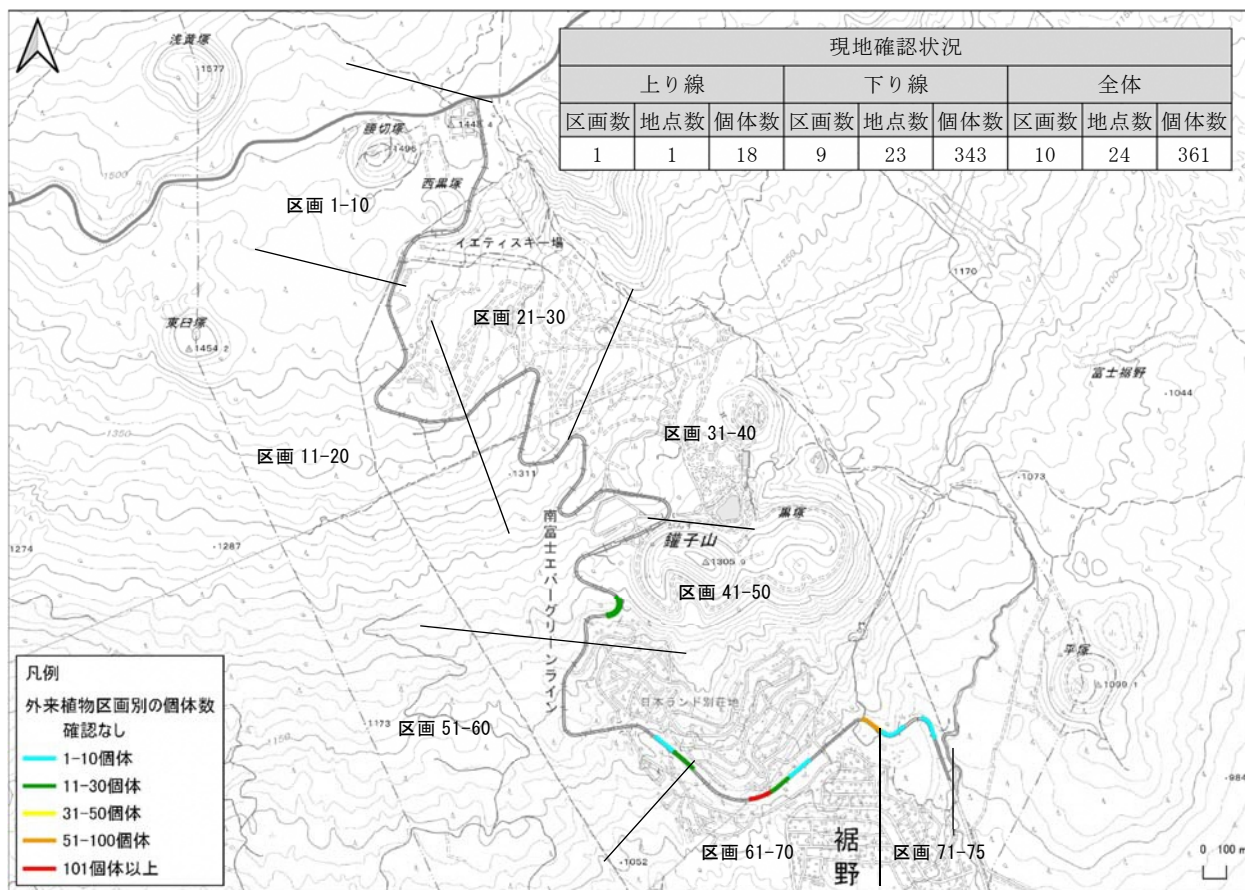


図 2.2.10 メリケンカルカヤの確認位置図

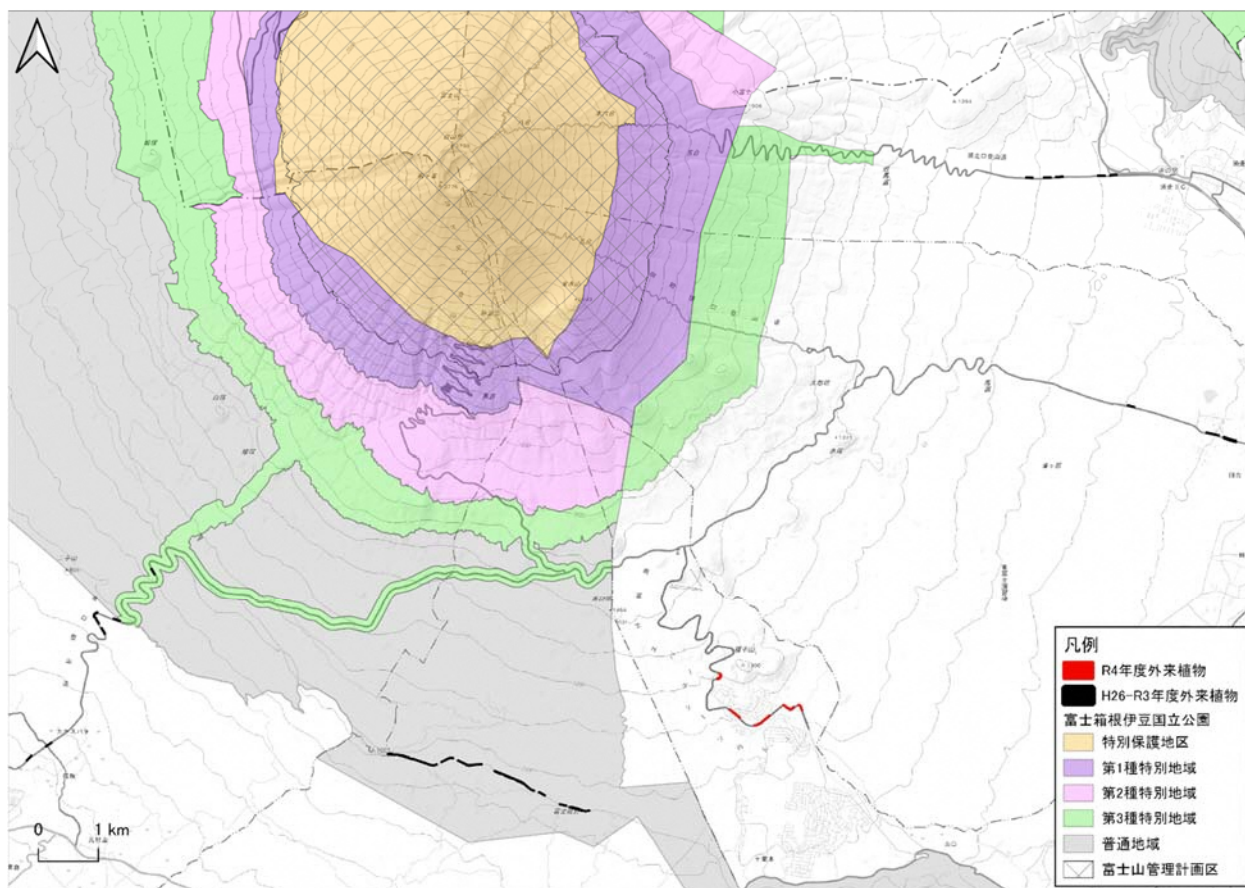


図 2.2.11 メリケンカルカヤの経年確認位置図

2) ハルガヤ

上り線の 14 区画で、38 地点 472 個体、下り線の 14 区画で 43 地点 419 個体、計 28 区画 81 地点 891 個体を確認した。確認地点の環境は路傍の草地であった。一部で群生する箇所もみられた。

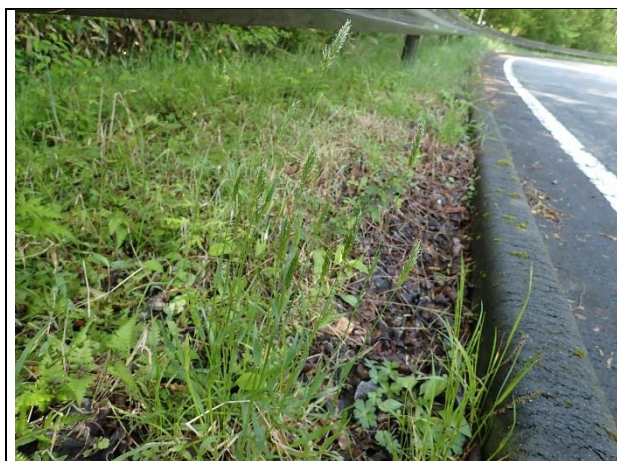
過年度（平成 27 年度～令和 3 年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高 1,450m 以下に限られる。

表 2.2.7 種の解説（ハルガヤ）

種名等	ハルガヤ（イネ科） 別名・流通名：スイートバーナルグラス
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	
特に問題になる 地域や環境	里草地や山地草原
原産地・分布	ヨーロッパ～シベリア原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯に分布。オーストラリア、南米等で侵略的。明治初年に入り、北海道～九州、四国に分布。寒冷地に多い。
特徴	多年草。高さ 0.7m。茎は叢生して直立し群生する。秋から春に発生し、花期は 5-7 月。種子と根茎により繁殖する。全草にクマリンを含み、芳香がある。
生育環境等	草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林に生育し、山地にまでみられる。日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばない。耐寒性、耐旱性があり、春先の生育が早い。
影響	海外で侵略的とされ、日本でも河川等で分布を広げている。耐寒性があり、山地にまでみられることから、自然性の高い草原へ侵入し、在来種と競合し、駆逐することが懸念される。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023 年 1 月 12 日確認)



ハルガヤ

(令和 4 年 5 月 18 日撮影)



生育環境

(令和 4 年 5 月 18 日撮影)

写真 2.2.7 ハルガヤの確認状況写真

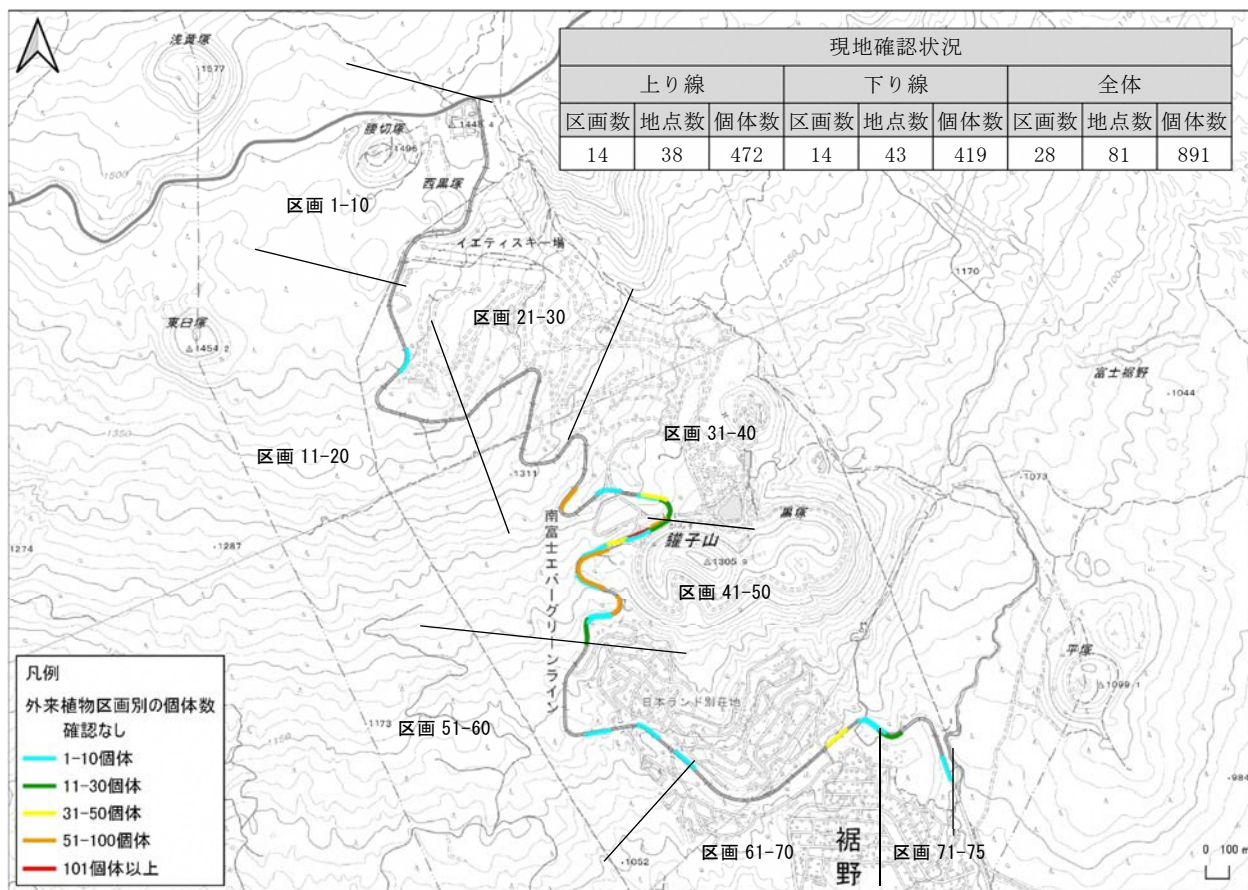


図 2.2.12 ハルガヤの確認位置図

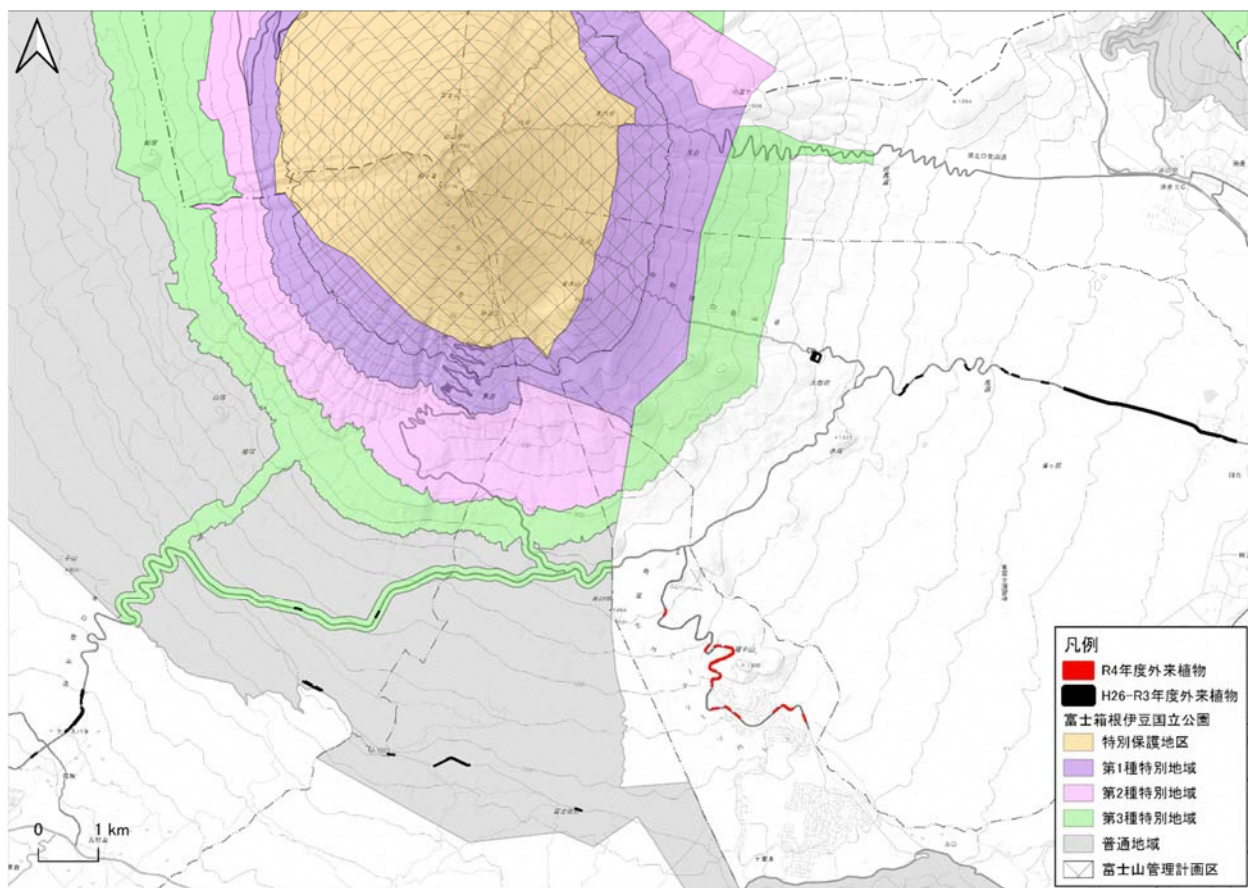


図 2.2.13 ハルガヤの経年確認位置図

3) ハルザキヤマガラシ

上り線の 55 区画で、334 地点 1,965 個体、下り線の 58 区画で 350 地点 1,930 個体、計 113 区画 684 地点 3,895 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、開けた日当たりの良い草地であった。調査を実施した 150 区画の 75%程度を占める 113 区画に区画に分布し、群生する箇所も多く見られた。

過年度（平成 26 年度～令和 3 年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は 1,350m 以下に多く、なかでも水ヶ塚駐車場、南富士エバークリーンラインに集中している。本種の分布は富士山スカイライン登山区間の標高 2,340m に及ぶことから、道路を介しての分布拡大が懸念される。

表 2.2.8 種の解説（ハルザキヤマガラシ）

種名等 ¹⁾	ハルザキヤマガラシ（アブラナ科） 別名・流通名：－
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	亜高山帯、河川敷
原産地・分布 ¹⁾	原産地不明。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布する。日本へは明治時代末年に渡来、1960 年頃に野生化、北海道、本州、四国、九州に分布。
特徴 ¹⁾	越年草～短命な多年草。高さは 20-90cm。花期は 5 月。長角果は風、雨、動物、人間により伝播される。1 個体辺りの種子生産量は 40,000-116,000 個との報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。標高 1,800m 以上の亜高山帯に生育している事例もある。
影響 ^{2)、3)}	上信越高原国立公園の鹿沢地区、鈴鹿国立公園の藤原岳などでは、ハルザキヤマガラシが増加し、在来種と競合のおそれがあるため、駆除作業が行われている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ（<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>）（2023 年 1 月 12 日確認）

出典 2) 鹿沢インフォメーションセンターホームページ（<http://www.kazawa.jp/fieldnote/2015-09-01-23-51-02>）（2023 年 1 月 12 日確認）

出典 3) 藤原岳でハルザキヤマガラシを駆除する際はご注意ください、三重県農林水産部みどり共生推進課。



ハルザキヤマガラシ

（令和 4 年 5 月 18 日撮影）



生育環境

（令和 4 年 5 月 18 日撮影）

写真 2.2.8 ハルザキヤマガラシの確認状況写真

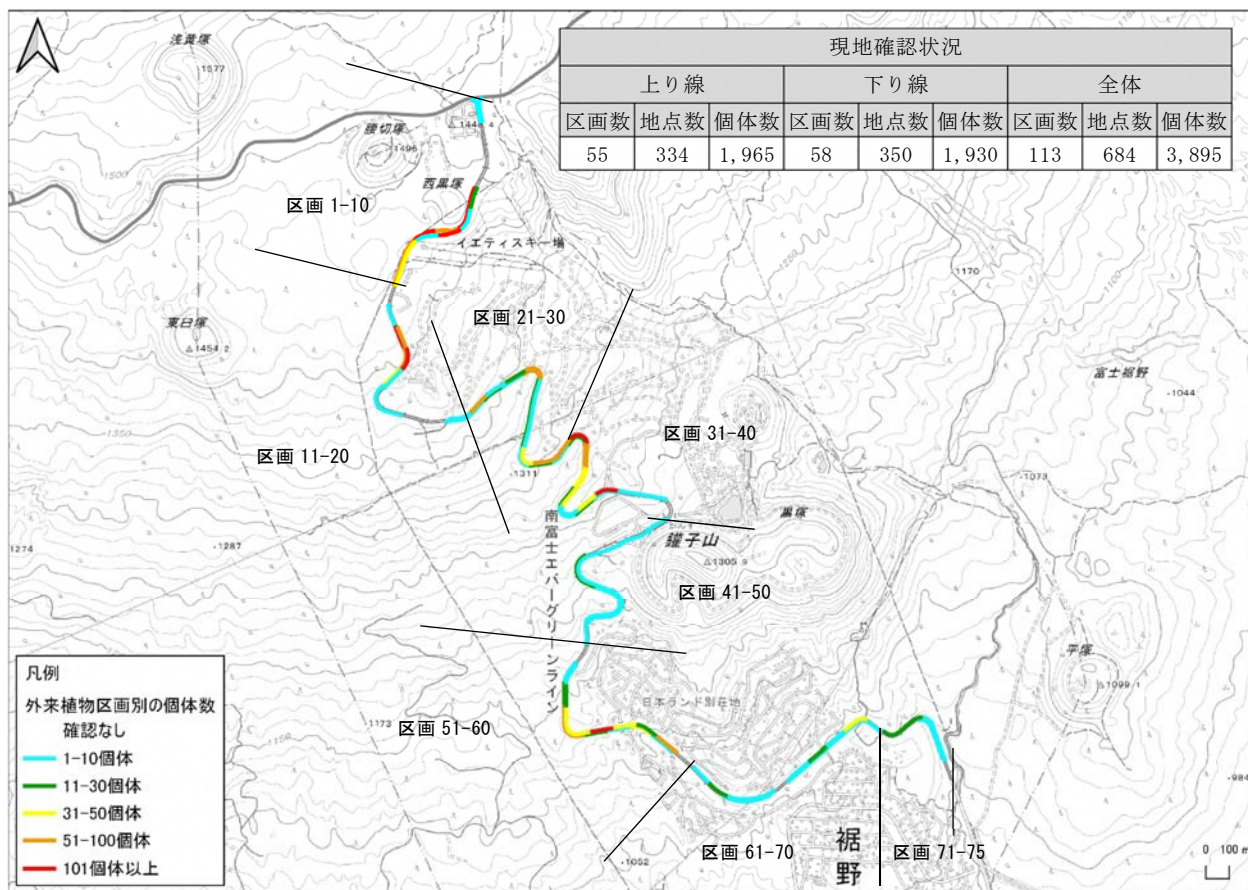


図 2. 2. 14 ハルザキヤマガラシの確認位置図

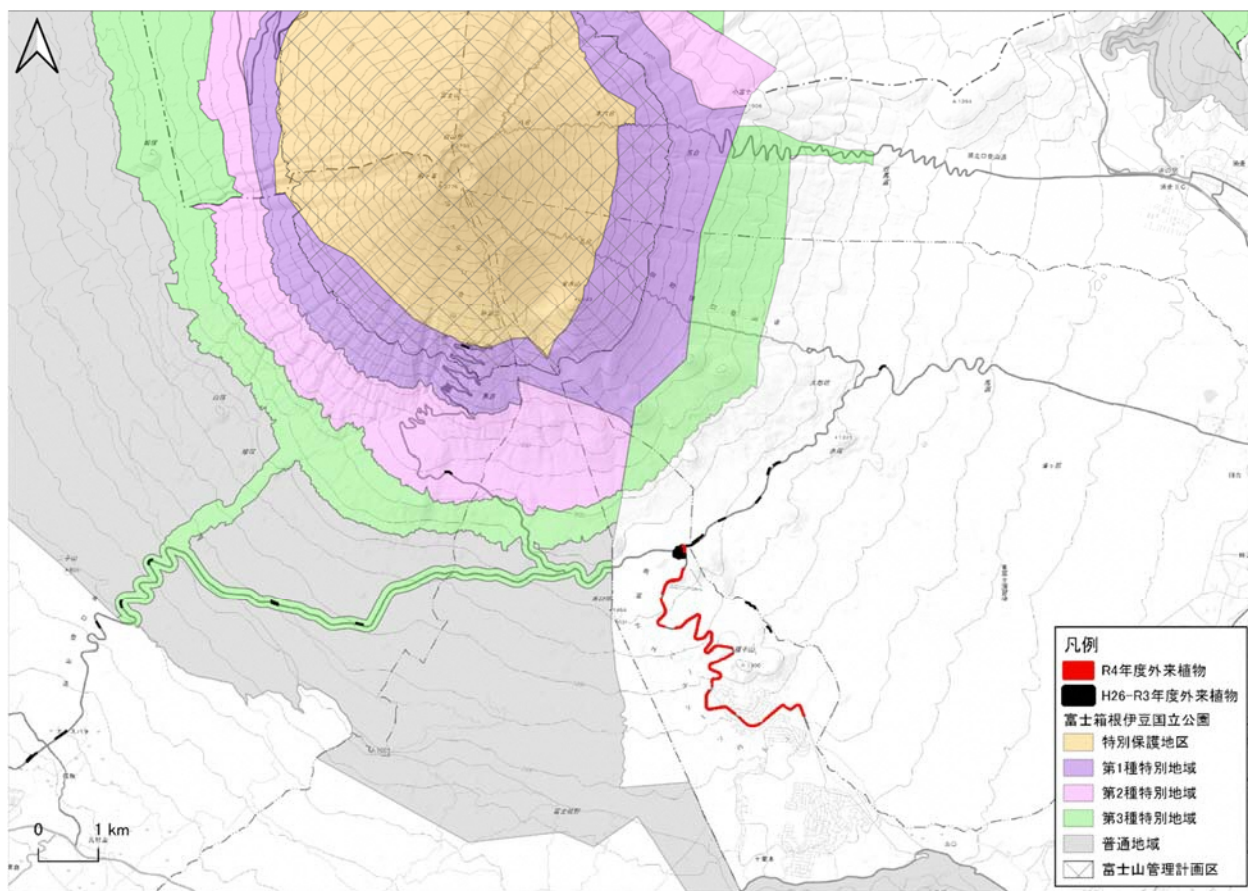


図 2. 2. 15 ハルザキヤマガラシの経年確認位置図

4) エゾノギシギシ

下り線の4区画で、5地点5個体を確認した。上り線では確認がなかった。確認地点の環境は路傍の草地であった。

過年度（平成26年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高1,980mに達する。本種は、富士山の外来植物ハンドブック（ふじさんネットワーク, 2018）において、「富士山への侵入を防ぎたい要注意・外来植物」として掲載されているため、南富士エバーグリーンラインにおいても対策の実施が望ましい。

表 2.2.9 種の解説（エゾノギシギシ）

種名等	エゾノギシギシ（タデ科） 別名・流通名：ヒロハギシギシ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	
特に問題になる 地域や環境	亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来ギシギシ類の生育地周辺
原産地・分布	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカに分布。国内へは明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州に分布する。
特徴	多年草。高さは0.5-1.3m。花期は6-9月。両性花。瘦果は風、雨、飼料に混入して伝播される。根茎による繁殖力が強い。周年にわたって発生、生育し、耐寒性が強い。
生育環境等	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育する。耐寒性が強いので、亜高山帯の自然公園などにも侵入する。
影響	北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象になっている。世界的に牧草地、樹園地の強害雑草として知られている。一度圃場に入り込むと短期間で拡大する。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023年1月12日確認)



エゾノギシギシ

(令和4年7月21日撮影)



生育環境

(令和4年7月21日撮影)

写真 2.2.9 エゾノギシギシの確認状況写真



図 2.2.16 エゾノギシギシの確認位置図

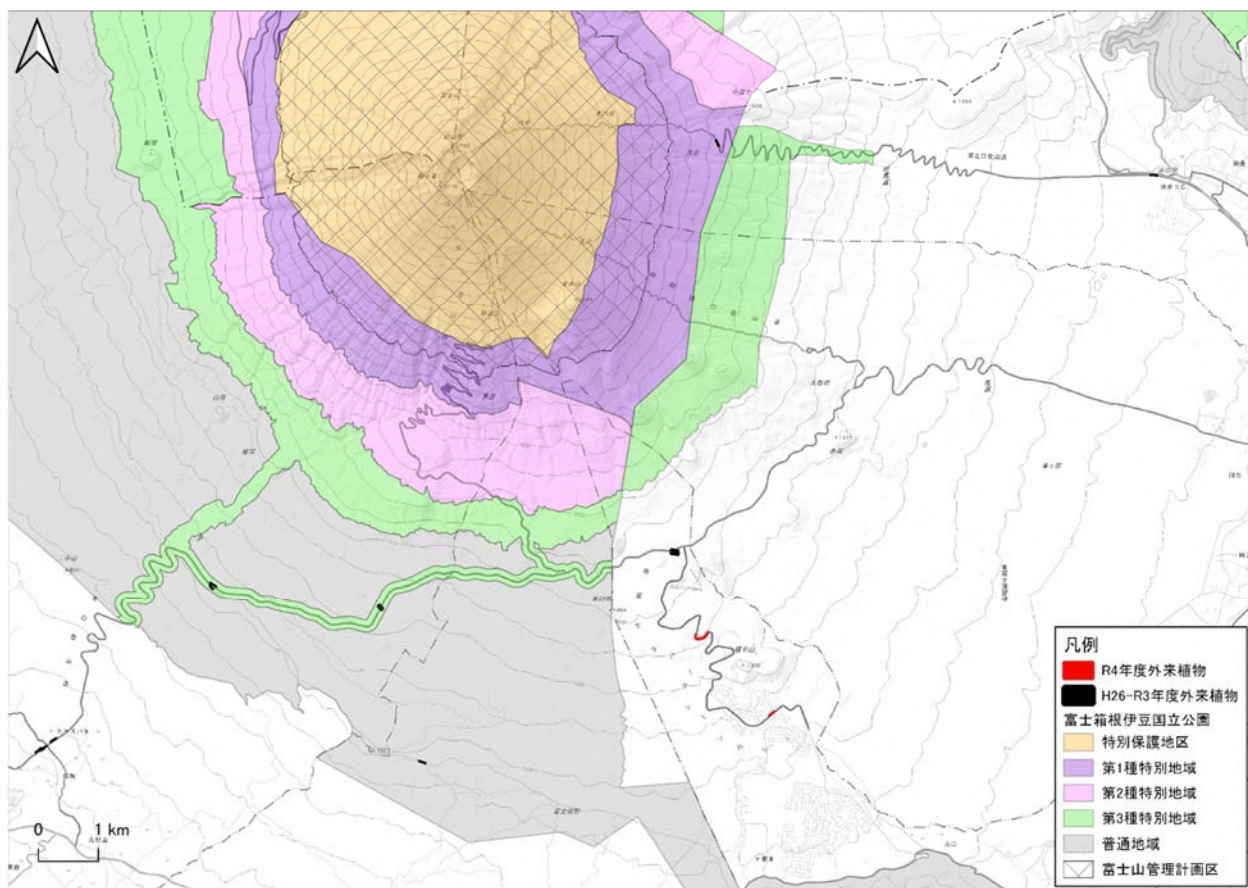


図 2.2.17 エゾノギシギシの経年確認位置図

5) アメリカセンダングサ

下り線の1区画で1地点1個体を確認した。確認地点の環境は路傍であった。

過年度（平成26年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高1,100m以下に限られる。また、南富士エバーグリーンラインでは分布範囲や個体数が多いことはないことから、地域生態系に対する影響は限定的であると考えられる。

表 2.2.10 種の解説（アメリカセンダングサ）

種名等	アメリカセンダングサ（キク科） 別名・流通名：－
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。 V. 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。
対策優先度の 要件	
特に問題になる 地域や環境	湿地
原産地・分布	北アメリカ原産。南ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布。
特徴	一年草。高さは1.0-1.5m。花期は9-10月。頭花は黄色で、上部の枝先に1個ずつつく。葉は長い柄が あって対生し、下部のものは2回3出複葉、上部のものは3出複葉となる。
生育環境等	湿った草地、水田、水路、休耕田、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。一般に水辺や湿地 に好む。
影響	水田雑草として、イネや水辺の希少種と競合する。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023年1月12日確認)



アメリカセンダングサ

(令和4年9月16日撮影)



生育環境

(令和4年9月16日撮影)

写真 2.2.10 アメリカセンダングサの確認状況写真



図 2.2.18 アメリカセンダングサの確認位置図

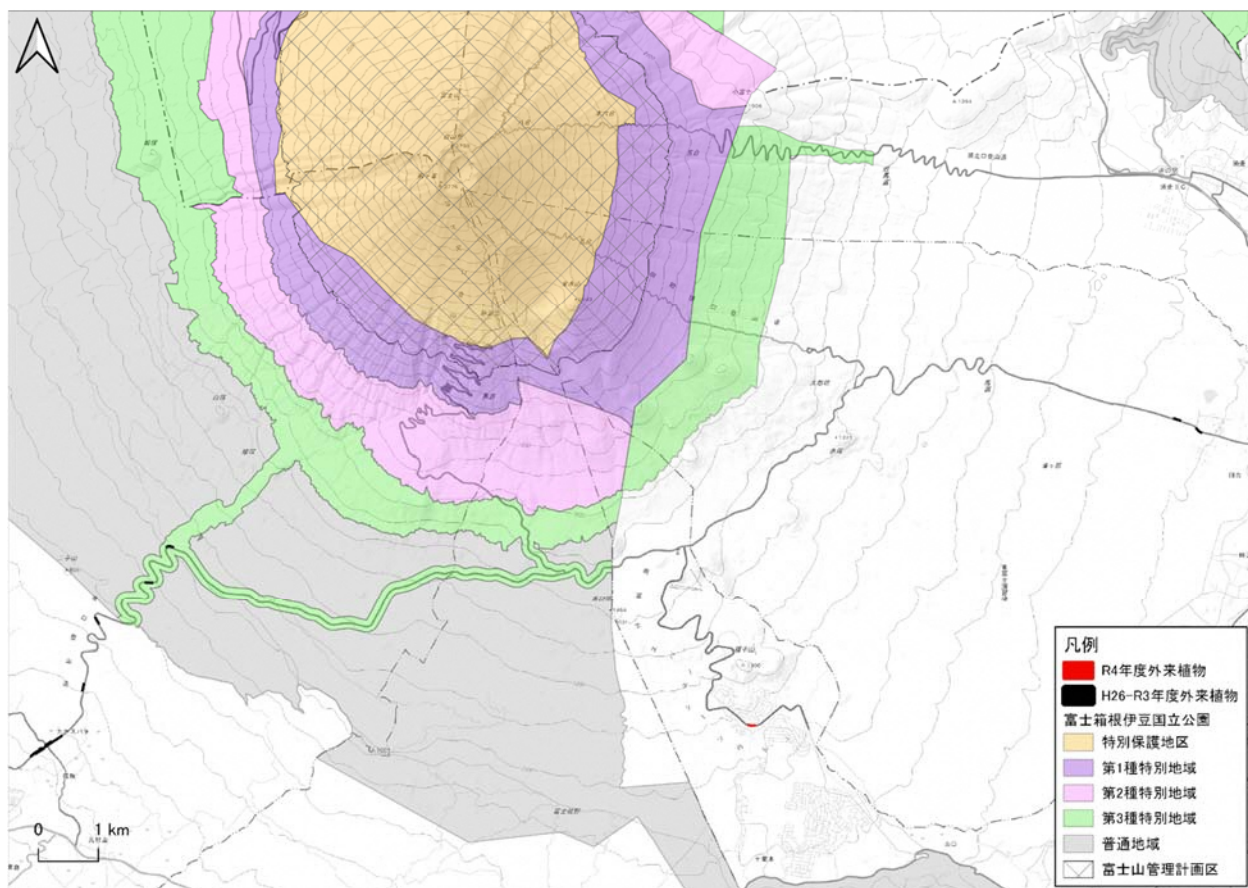


図 2.2.19 アメリカセンダングサの経年確認位置図

6) ヒメジョオン

上り線の 39 区画で、76 地点 178 個体、下り線の 42 区画で 94 地点 254 個体、計 81 区画 170 地点 432 個体を確認した。全域に広く分布するが、1 地点あたり個体数は少なく疎らである。確認地点の環境は路傍、開けた日当たりの良い草地であった。

過年度（平成 26 年度～令和 3 年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高 1,870m に達する。過年度の調査結果と同様に、南富士エバーグリーンラインにおいても広く分布を確認した。本種は、富士山の外来植物ハンドブック（ふじさんネットワーク, 2018）において、「富士山への侵入を防ぎたい要注意・外来植物」として掲載されているため、南富士エバーグリーンラインにおいても対策の実施が望ましい。

表 2.2.11 種の解説（ヒメジョオン）

種名等	ヒメジョオン（キク科） 別名・流通名：-
外来植物 選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	
特に問題になる 地域や環境	山地や亜高山帯の草原
原産地・分布	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。国内へは江戸時代末期に渡来、明治初年には広く分布。北海道～九州に分布。
特徴	一年草。高さ 0.3-1.5m。茎は直立し淡緑色であらい毛がまばらに生え、中心部に白色の髄があり中空でない。根生葉は長柄があって円形に近く、大きな深い鋸歯があり、花時には消失する。花期は 6-10 月。瘦果は、風、雨、動物、人間により伝播される。根茎により繁殖する。
生育環境等	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。
影響	農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入し、在来植物との競合が問題となる。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023 年 1 月 12 日確認)



写真 2.2.11 ヒメジョオンの確認状況写真

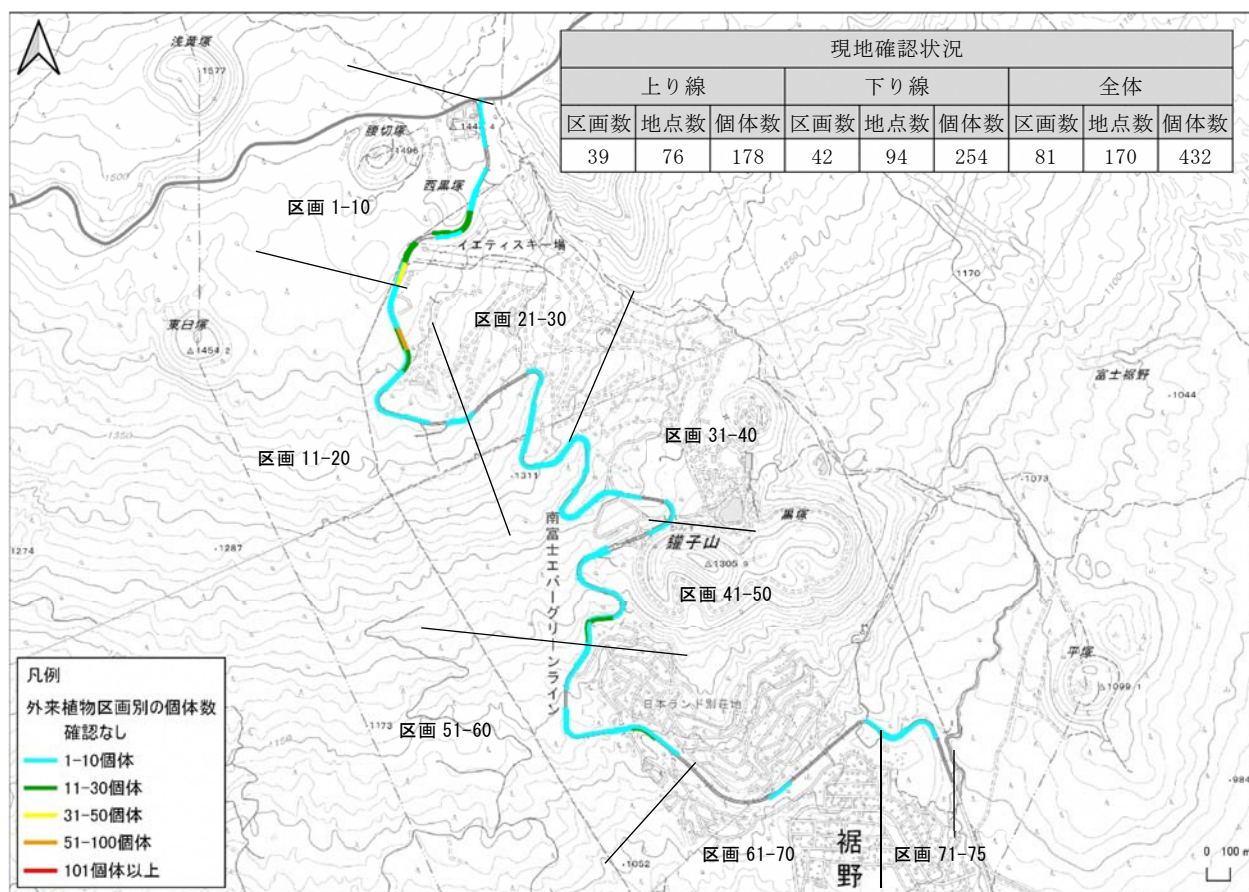


図 2.2.20 ヒメジョオンの確認位置図

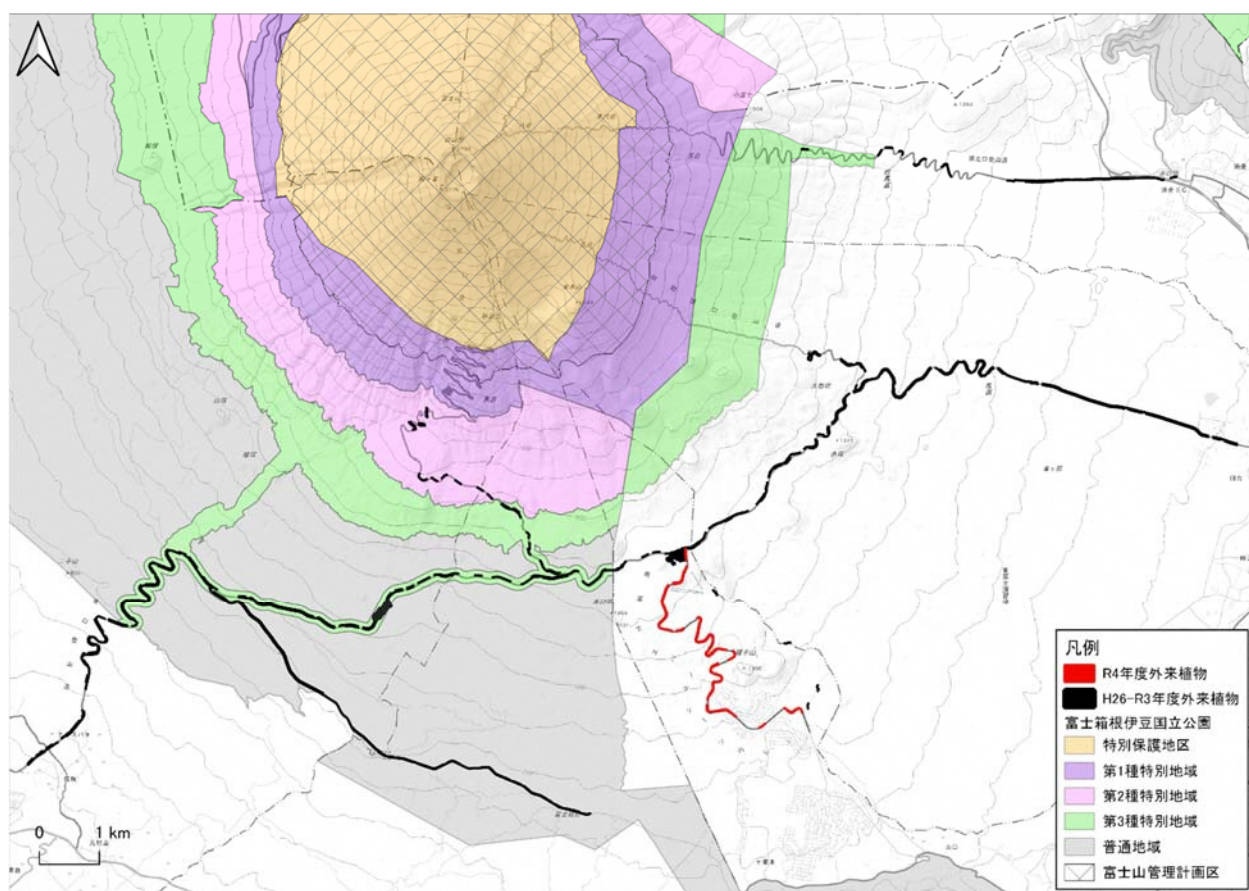


図 2.2.21 ヒメジョオンの経年確認位置図

7) フランスギク

上り線の2区画で、7地点32個体、下り線の4区画で、11地点84個体、計6区画18地点116個体を確認した。確認地点の環境は路傍の草地であった。

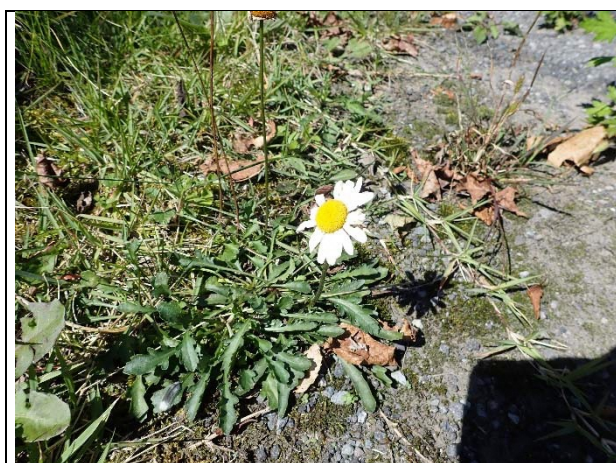
過年度（平成27年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高1,000m以下であったが、南富士エバーグリーンラインでは1,410m付近にも分布がみられた。本種の分布は高山に及ぶこともあることから、道路を介しての分布拡大が懸念される。

表 2.2.12 種の解説（フランスギク）

種名等	フランスギク（キク科） 別名・流通名：－
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	
特に問題になる 地域や環境	亜高山帯
原産地・分布	ヨーロッパ原産。アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がる。江戸時代末期に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。特に北海道に多い。
特徴	多年草。茎は直立、基部で分岐して高さ30～80cm、粗い毛がある。葉は根生葉があり、さじ形で鋸歯があり粗い毛が生える。花期は6月。種子と地下茎で繁殖する。ロゼットを形成して越冬する。
生育環境等	畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。
影響	高山地域にまで侵入しているため、各地の国立公園等で駆除の対象となっている。

出典) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023年1月12日確認)



フランスギク

(令和4年9月16日撮影)



生育環境

(令和4年9月16日撮影)

写真 2.2.12 フランスギクの確認状況写真

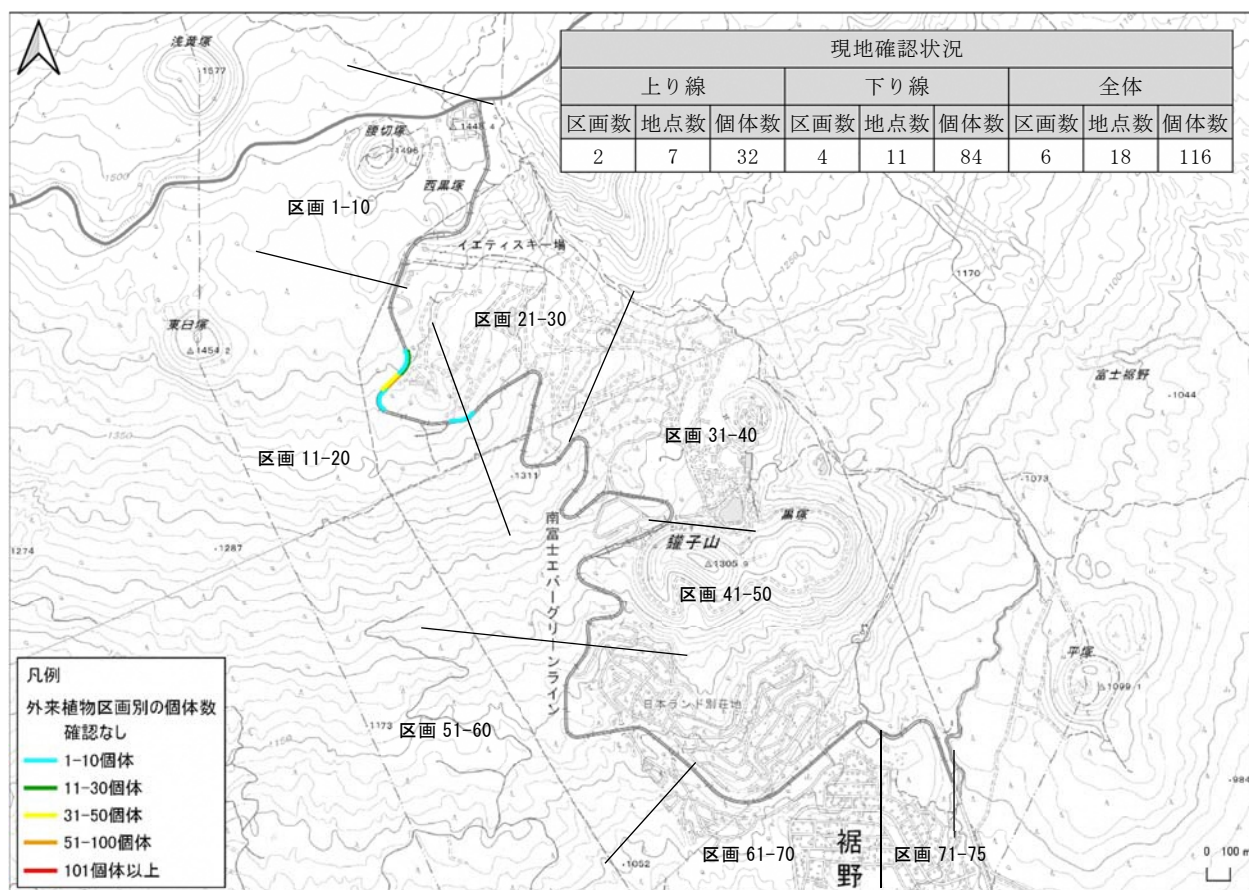


図 2. 2. 22 フランスギクの確認位置図

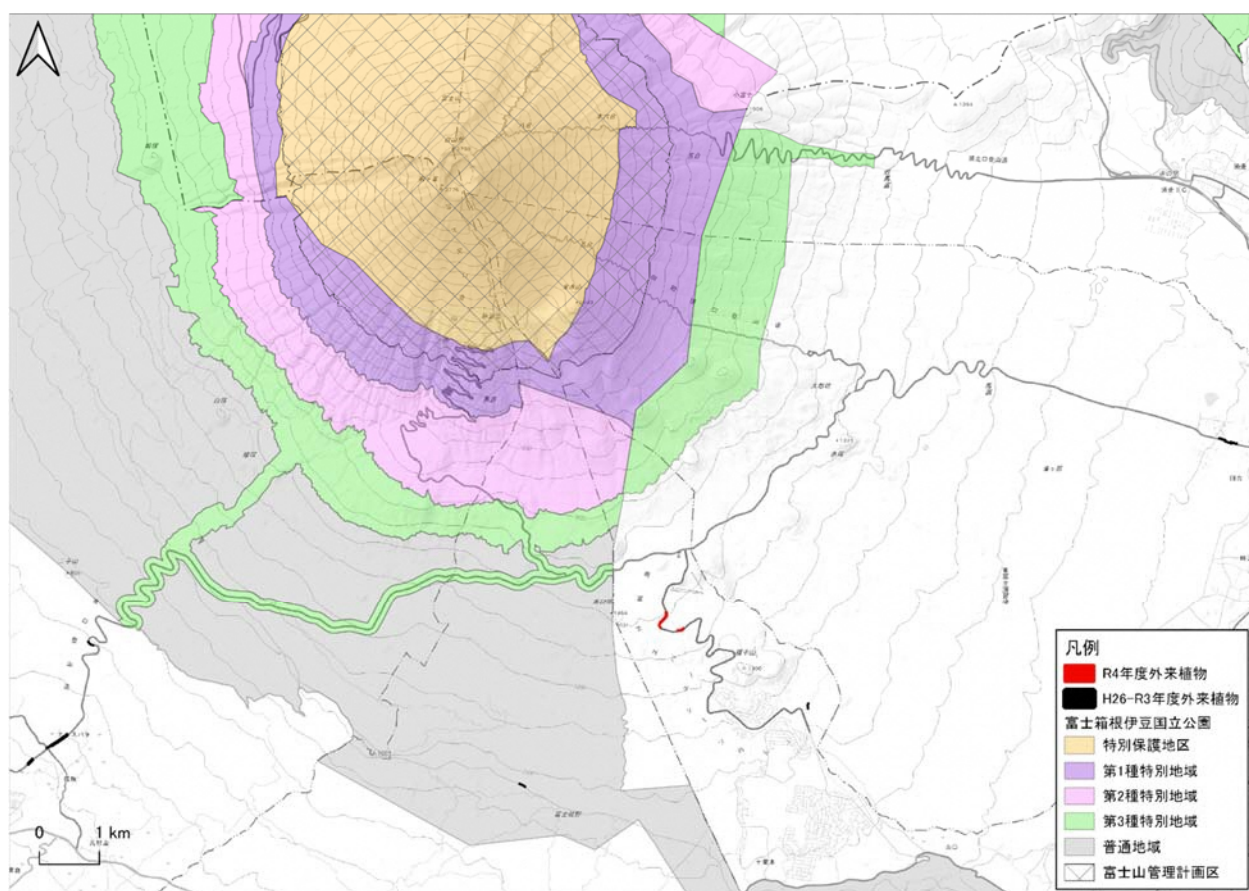


図 2. 2. 23 フランスギクの経年確認位置図

(3) 産業管理外来種

産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要と定義される、産業管理外来種は、コヌカグサ、カモガヤ、オオアワガエリの1科3種を確認した。

1) コヌカグサ

下り線の2区画で2地点7個体を確認した。確認地点の環境は路傍の開けた日当たりの良い草地であった。

過年度（平成27年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高1,450m以下に限られる。また、南富士エバーグリーンラインでは分布範囲や個体数が多いことから、地域生態系に対する影響は限定的であると考えられる。

表 2.2.13 種の解説（コヌカグサ）

種名等 ¹⁾	コヌカグサ（イネ科） 別名・流通名：レッドトップ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	河川敷、絶滅危惧種のヌカボ属の生育地周辺
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯～亜寒帯に分布。合衆国やカナダで侵略的。国内へは明治初年に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）に分布する。
特徴 ^{1), 3)}	多年草。茎は0.5-1m。種子、地下茎及び匍匐茎で繁殖する。小穂は長さ2-2.5mm、少し光沢があって赤褐色をおびる。花期は5-7月。
生育環境 ¹⁾	畑地、牧草地、樹園地、路傍、草原、湿地、水辺などに生育する。日当たりの良い所を好む。耐寒性が強く、強酸性土壌に生え、耐旱性もある。湿潤であれば土壌の種類を選ばないが、一般に粘質土壌～壤土に多く、やせた土地にも適応する。
影響 ¹⁾	青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。

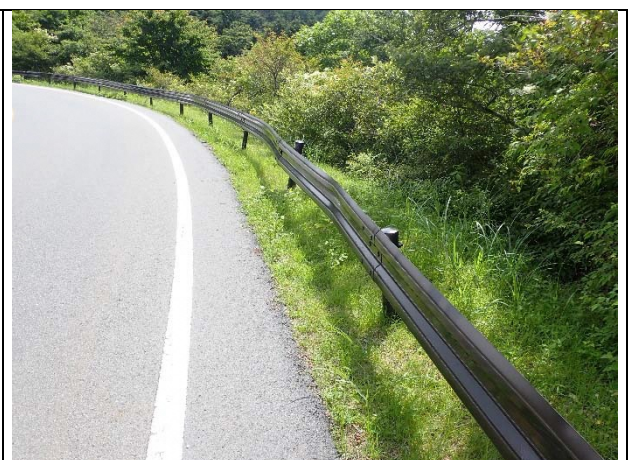
出典) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023年1月12日確認)



コヌカグサ

(令和4年7月21日撮影)



生育環境

(令和4年7月21日撮影)

写真 2.2.13 コヌカグサの確認状況写真



図 2.2.24 コヌカグサの確認位置図

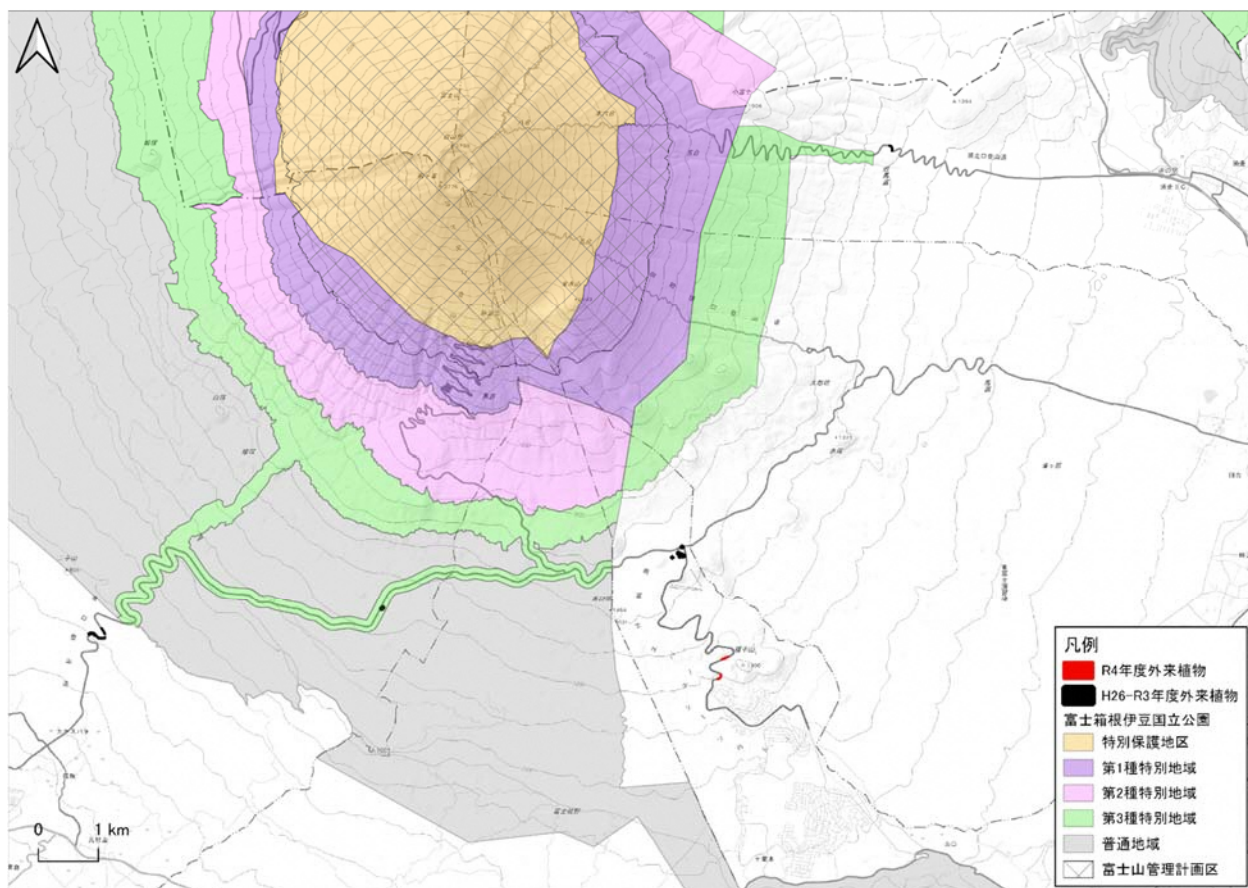


図 2.2.25 コヌカグサの経年確認位置図

2) カモガヤ

上り線の2区画で、3地点5個体、下り線の2区画で2地点2個体、計4区画5地点7個体を確認した。確認地点の環境は路傍の開けた日当たりの良い草地であった。

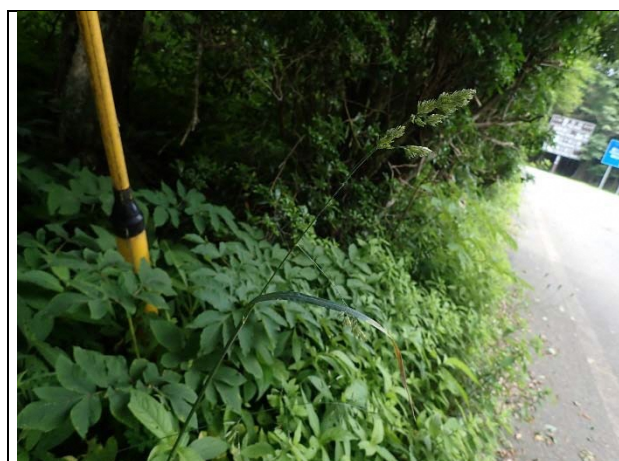
過年度（平成26年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高2,350mに達する。本種は、富士山の外来植物ハンドブック（ふじさんネットワーク, 2018）において、「富士山への侵入を防ぎたい要注意・外来植物」として掲載されているため、南富士エバーグリーンラインにおいても対策の実施が望ましい。

表 2.2.14 種の解説（カモガヤ）

種名等	カモガヤ（イネ科） 別名・流通名：オーチャードグラス
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階	分布拡大期～まん延期
選定理由	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件	
特に問題になる 地域や環境	山地草原
原産地・分布	地中海～西アジア原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯に分布。国内へは1861～1864年に渡来。1868年にアメリカから導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴	多年草。高さ0.4～1.5m。開花期は5～6月。種子の生産量は多く、風、雨、人間、動物に付着して運ばれる。根茎により繁殖するが、根茎は短く匍匐茎を伸ばさない。再生力は旺盛である。
生育環境	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育する。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好むが、環境適応性は幅広い。耐陰性が強いことが特徴である。
影響	北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。

出典)我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ（<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>）（2023年1月12日確認）



カモガヤ

（令和4年7月21日撮影）



生育環境

（令和4年7月21日撮影）

写真 2.2.14 カモガヤの確認状況写真

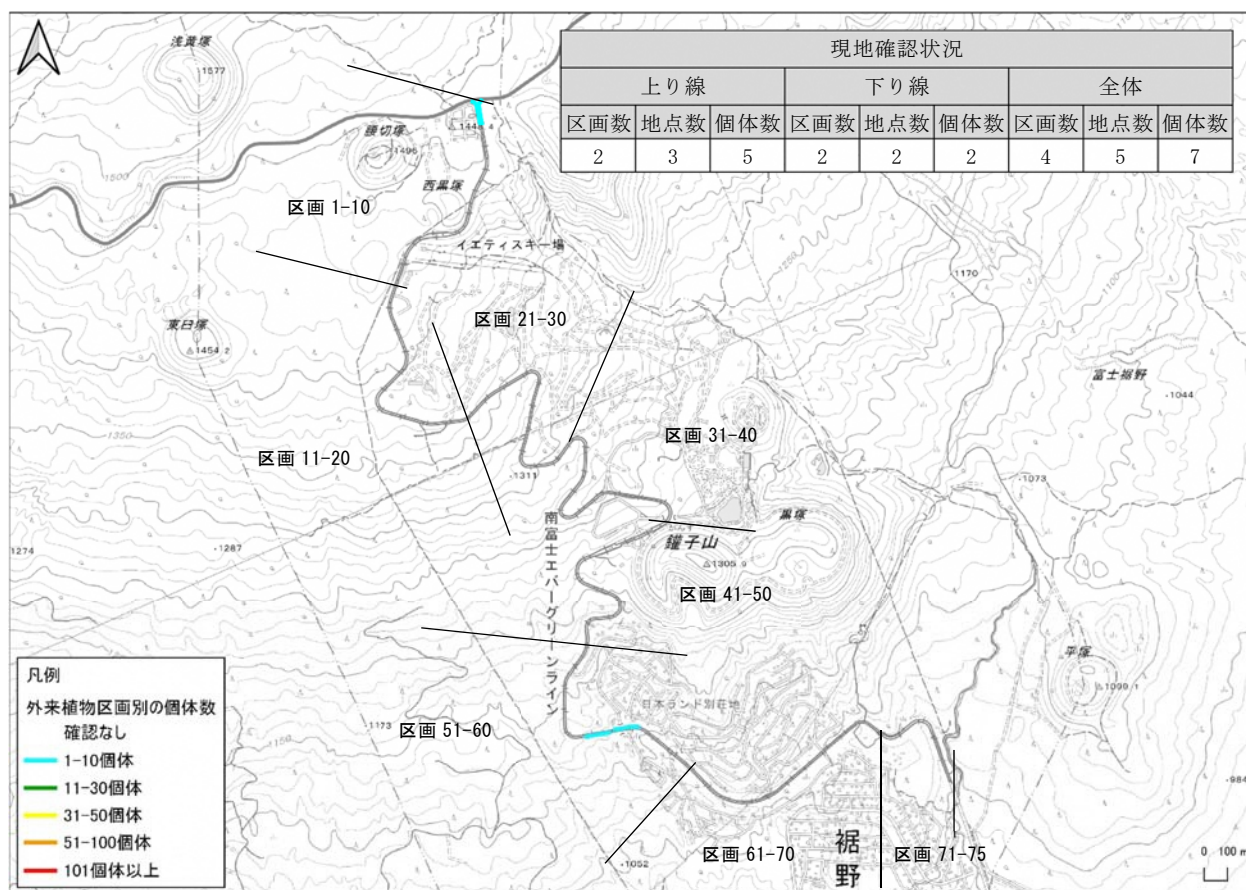


図 2.2.26 カモガヤの確認位置図

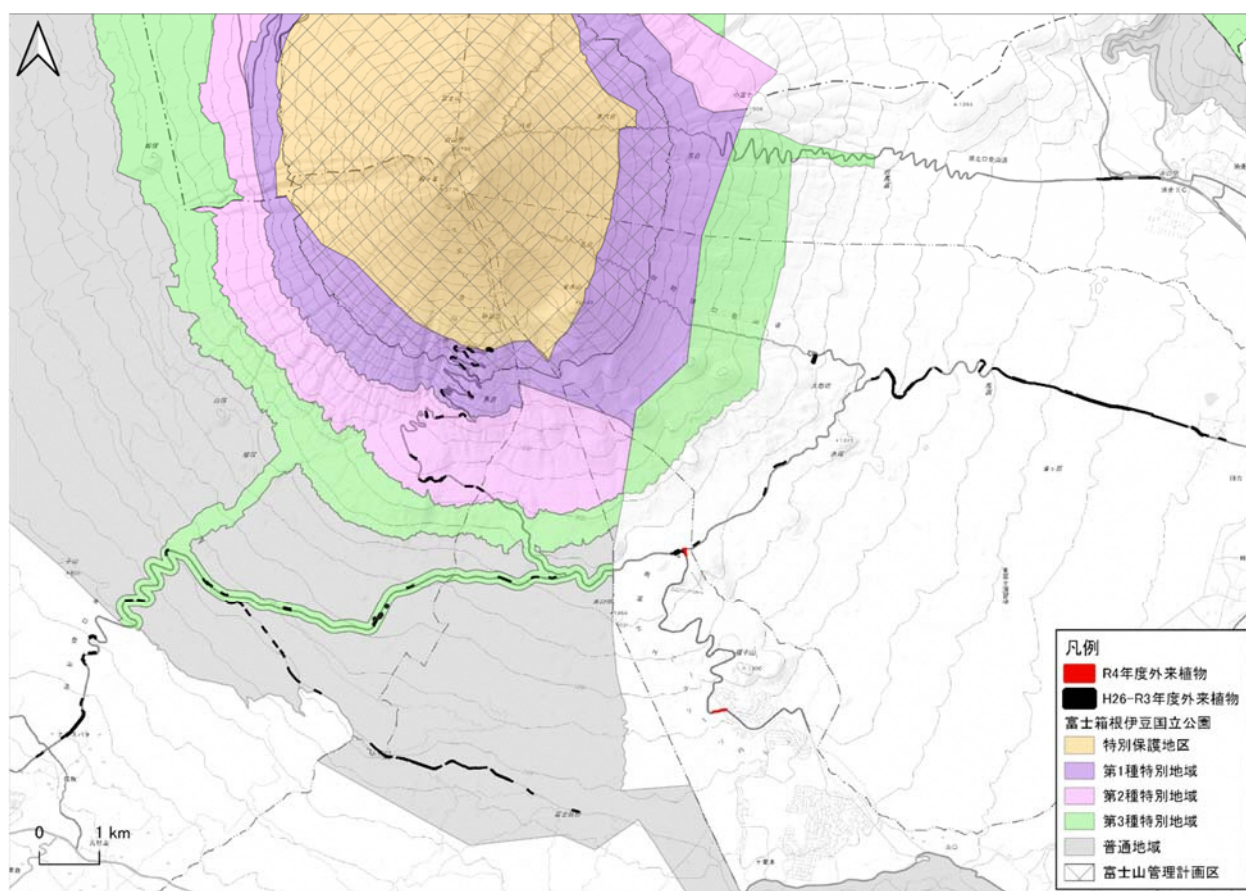


図 2.2.27 カモガヤの経年確認位置図

3) オオアワガエリ

上り線の1区画で、1地点1個体、下り線の1区画で1地点10個体、計2区画2地点11個体を確認した。確認地点の環境は路傍の開けた日当たりの良い草地であった。

過年度（平成26年度～令和3年度）及び今年度の調査結果から、富士山麓における本種の分布は標高2,350mに達する。本種は、富士山の外来植物ハンドブック（ふじさんネットワーク, 2018）において、「富士山への侵入を防ぎたい要注意・外来植物」として掲載されているため、南富士エバーグリーンラインにおいても対策の実施が望ましい。

表 2.2.15 種の解説（オオアワガエリ）

種名等 ¹⁾	オオアワガエリ（イネ科） 別名・流通名：チモシー
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	亜高山帯や山地の草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパからシベリア原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカの温帯に分布する。国内へは明治初期に入り、北海道、本州、四国、九州に分布。
特徴 ^{1), 2)}	多年草。高さ0.5-1m。開花期は6-8月。両性花。風媒花。茎の基部節間が肥大した球茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地に生育する。冷涼で多湿の気候を好み、肥沃な日当たりの良いところに多い。
影響 ^{1), 2)}	自然草原への侵入が問題となっている。北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象になっている。

出典) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>) (2023年1月12日確認)



写真 2.2.15 オオアワガエリの確認状況写真

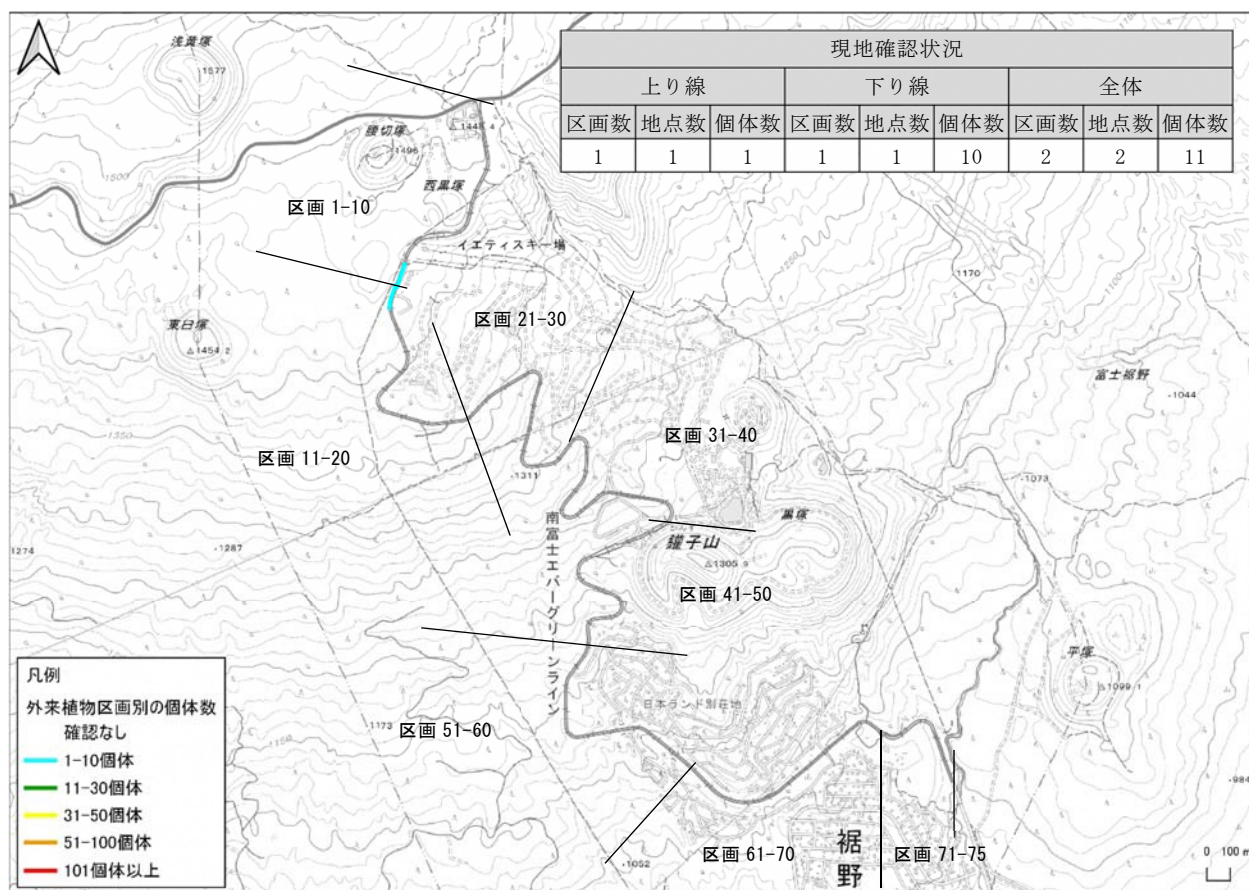


図 2.2.28 オオアワガエリの確認位置図

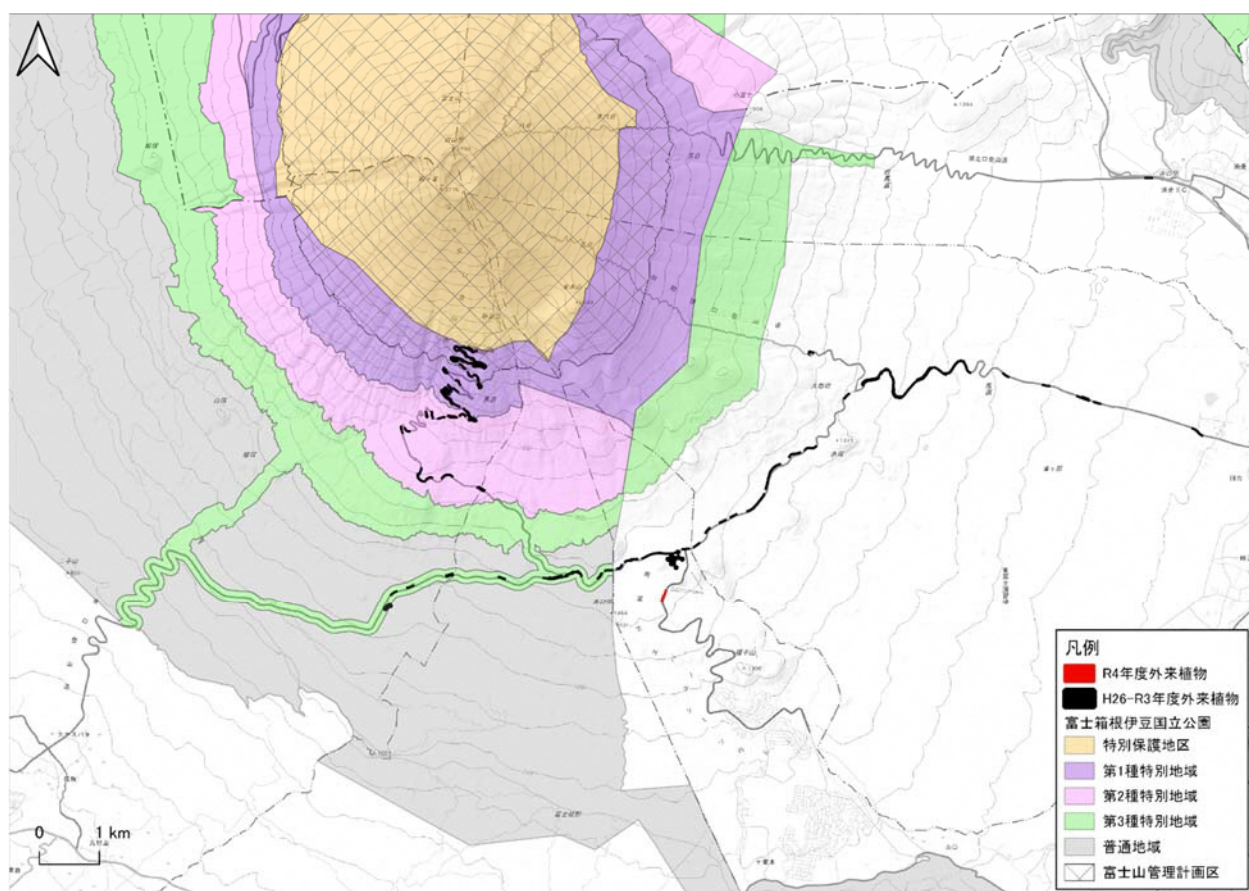


図 2.2.29 オオアワガエリの経年確認位置図